東蝦夷日記五編

全

第八參号
全七冊内第五

東京圖書館
和書門 類 一三四 函 三 架 二四 號 冊

95
Case 3
Shelf 6

東西蝦夷山川地理形狀紀略

東蝦夷地誌 五編

帝國博物館
類屬 紀行
冊 十二
函 十四
第三〇第

角筆寫本摘花板

明治九年一月購
教育博物館

凡例

此編ハ前編巻四三石境ヨリシニウシヨ業戎郡ヲ浦河（ウラカワ）様（サマ）似ノ二場所ホロベツ シヤマニベツ等ヲ其ノ次ノ川筋ニ元浦河（モトウラカワ）ト称ス最ハ準ス

一編中歸醫山等樹院ノ其代ヲ徳行ヲ熟ヲ面住ノ云伝ヘヲ其名シ

冨足軍ノ徳行ヲ親ヲ生教化ヲ新ヲシ土人ヲ帰命ヲ賞ヲ

ヲ以テ其ノ為ノ為ノ月ヲ其ノ為ノ為ノ為

一 蕃書 字羅加波先 三冊 武古別志 一冊 縄別志 一冊 志苗麻尼志 二冊
右の七冊を以て編輯せし編輯せしにつき我が国人の考に出
新に熟覧あり玉へんことを
文化四卯年のとし孟冬大江戸谷の寓居にて考へ
終る

東蝦夷日記巻五編

松浦武四郎源弘 著

浦河

五十瀬

花曾識面香仍好。鳥不知名聲自呼 東坡集 此地徒に如此こと有オニウシ昨を思て
行や林蔭はトツピンさと呼鳥ゆり是をトツピンと呼い土人トツピンとも呼ぶ如何もトツピンあり
紫鬱鈴をうつ人を余写せき文旨の世を生起元と考へられしも土人見をホケチと
ちまさ者を幼稚もこ名とす学ぶべき物にて此地の云を言葉まんより見ぬ時の行せよ
事を新多便あり内地も大古を世に多人多年も此学の開ぬ文義を成し故よ
生ぬ古を先とことを考へ内地の事能を此地に楽と

さるを未だ行基僧教弘法等いへる者錫を入れる地ありと識者の服一言まして一島を殷針を見を八十余ありて今日尊先北地先地を迷を生脉の間人多く函館を来航し東蝦夷加ノを北オホツカ満ち地方軽敵戎狄の国版の中央を穢り彼を地ノ我国の人の方にて版籍に入れて我国の戦争

鏡の為あるべき所なれども我国の皇国の芝

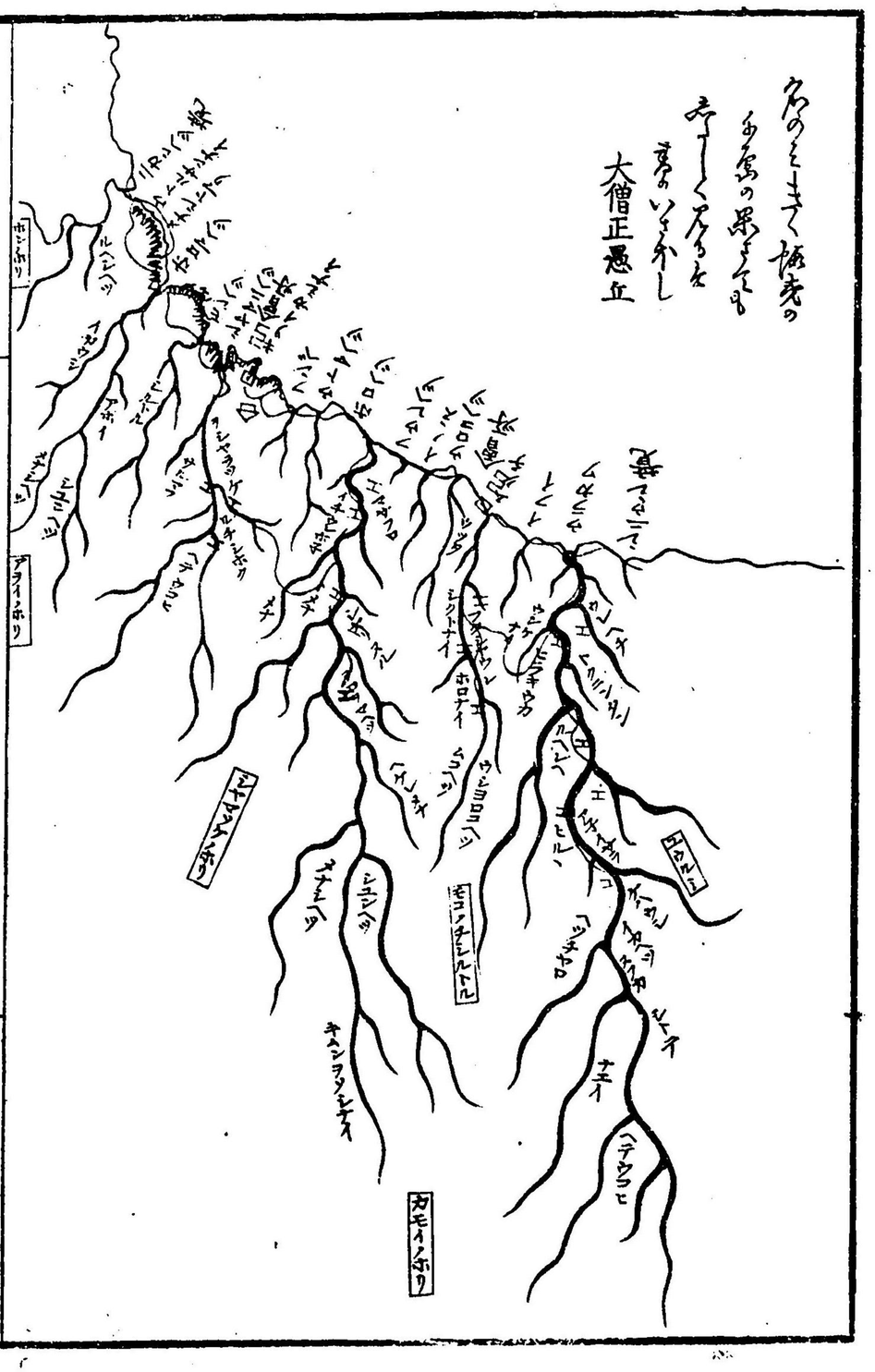
十四ノ十四 オホナイ湖 此湖に入る少き者に深沢の東に所エカニウシ川ヒラ岩平ヶ所

元浦川 川口六十間 雲崖高さ五丈 高岩孤峰あり 本名ウラカワ 雲霧立る

高あり今浦河の字成壊て異人エホンドモを舎戦の腸の多くを立て見蝦夷の

想見はて今示を注古者川縁ゆへ人の地を掘るウラカワ切りて坊所

名にし此川より元の字を替し名ウラカワ切りて坊所



西蝦夷地江戸表ヨリ遠隔東蝦夷地ハ嘉永六丑年八月二日より松前一国ヲ
幸ヒ流ヲ屈曲シテ海ニ入ル山傍ヲ新家銃作ヲ人ヲ人牧場ヲ開キ
人家二軒西蝦夷地ヲ数年ヲ経テ漸ク栄ヲ加ヘ見ヒウンベチ海ヲ云ヒシ
ブンニシリ山ヲヒラキウカ岐小ヲヒイシユンコダン人家ヲ西蝦トクニンダレ茅屋人家
ルモウシ人家ヲ名ルウシヲ見ヒイブイヘヲ見ヒ
雨山樹木多ク茂ヲイチヤヤ、人家ヲ此上磨野ヲ一里四面ヲ不毛之地
フウレベツヲ岐ヒシクシホロナイ岐キムンクシホロナイ岐南ヲハラエウチキ、岐ヒラウ
トルケシ岐小川ヲ見ル工ハトル村ヲ小ヲ見ホロナイ岐マクンナイ岐西蝦ヲ
ユウルシ川ヲ丸山ヲ見オサルンナイ岐ライヘツ人家ヲ川ライヘツ海ヲ死門ノ家ヲ
古川ヲ人ヲ見ル此ヲ編ヲ為ルシトナヲ云家ヲ屋体ヲ見ル東ヲ又カル

ワノウ又ヲ見ルヲハナタムイニセシナイ岐カムイニセシナイハ昔ヲ勢ノ強キヲ内人
見ルヲ勢ヲ武人ヲ大古交合ノ是ヲ報ヘシ者ヲ有ヲ依テ戦ヲ者ヲ
大和ヲ有ヲシ世ヲ人ヲ他人ヲ他ヲ者ヲ家ヲ多ヲ
ニタツナイ西蝦小川ヲ岐ヲ アヲ子サラ日岐ヲ人家ヲ此地ヲ動ヲ川筋ヲ長ク開ヲ
見ヲ西ヲ渡ヲ見ルケハウシ岐小ヲヌツホクシナイ川ヲハシナイ岐ルシコシナイハ
西蝦イカベツ川人家ヲ又ブカ小川人家ヲ何ヲ畑ヲ有ヲ作ヲ出来ヲ
カヲ見ヲ浦ヲ山ヲ人ヲ他ヲ山田ヲ作ヲ都ヲ
家ヲ馬ヲ飼ヲ者ヲ猪一枝ヲ咲ヲシトナ岐此ヲ動ヲ作ヲ論ヲ蝦夷ヲ此ヲ力子カ
ルウシナイヲ山実ヲ食ヲ金ヲ拾シ跡ヲ山巻ヲ此ヲ金ヲ共ヲ所ヲ
此ヲ猪ヲ捕ヲ岐シ畑ヲ家ヲ生跡ヲ家ヲ法ヲ遠ヲ運

送ル車ヲ用ヒ中ニ入テ車ヲ引ク石階ヲ
上ル古坑ヲ常ニ砂土流出ス下ノ場ノ
基キ多ク南岸ニハホロイワ山ト称スル
山迫ニ多ク人家ノ住ル所ニ
出ル是ハ多クベッチャリ二映ル山ヲ
南ニ多キ川端ニ数冬蕗ノ生ル小
屋ヲ作リ宿シ旅籠ヲ設ケ井戸ヲ
掘ル人ハ別ニ有ル所ニ多ク桃
ヒシモモ夏熟ス事ヲ
方ノ方南川岸一ノ大屋南岸小屋

長風吹
髪夕陽
雲雪機
凍沙老
自寛不
似妻遷
人海隙
胡帆無
志度居
閑

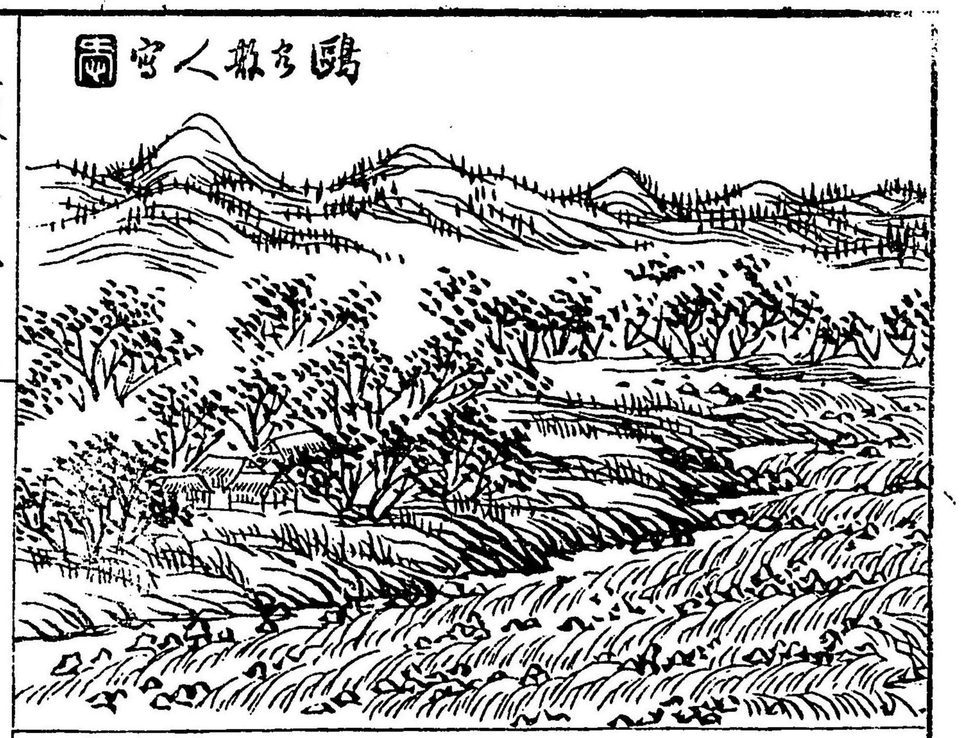
仙臺梧楊

源モコヘツノヲシヨツヘツと一枝ヨリ
ムカヘラウクシメナ小ハサツメナハ共ヨリ流出ル
メナシ川の屈曲蜿蜒ヲ云ヘリ是ヲメナエ
トクハ祝是川筋の国の如く洪水の後此
方ハ切株ヲ切ル流木多く急ヲ国の
如く新多ク雲ハユツホニフリたレセイカバハ
少ク神霊ハ多ク深ク多ハ櫻樹
ムカヘラ多イサラ此上ハ地小屋ヲ基盤
ハ多ク大岩石多ク多ク基根ノ見
ナエイ大ナイの延ヲ経ル

國香作
主山

此川岸一の丈高ク水ホロナイのトラトラシフと五六たまと
相川筋金敷屋より東を土崖離れ出ゆ人水流るゆ指き示れるる山水示ヒ
乳ユクヌシ此ヌモマナイ此向ヒホンヌモナイは従是此山あるよ コエホノ
ヨシヨシレナイ此向内ヒ流ヒ岩ヒ岩ヒ高ヒ高ヒ高

フミトシも皆此山の麓麓の所々所あり
四方皆海にて生ずるよいアイバシユカニと
云木綿一面に生ずる船を焚て石
楠花と思ふる又雪に黒毛の鹿多と共人
見て神の使とし云て殺害せざる故見
獵し為る所人出人に見て儲る故山
の神を祭る山蔭に多く畏ひ恐て共人
乃食糧に乏敷ふ所と見て勝手
に切り捨て共者出る事無丈中も
別し作の神社多と船を家のかし西面に



廊下の通行の中に洞あり是廊に車を
附て軍船心安く為る中に居小船し
今此所に到し者到と近比を合て頃を
見を相し時間ることあると作時の学り
如此為る出て為ると此比高年近年
紀し者居の処代武家に用時に殿
場臣方共面と是廊時に開きまし開る
ことを為ると為に寄に不思議為ることを
此山半とトカチ領に従神殿を方所
事に一の浪方知り三里共二里共云是則

サツナイの水源あり夫をサツナイ土人を家の基神の祭を受ることを不行ウラカワ
土人を出源と云ふる所西し出潮るを海獄海岸なりと神威の岱なりと云ふこと
猛しとへしまく此山より已後を皆別名式を呼ふ生一二を他より臨海トウナ
昆布エサ 松前ナヲナ 鯉チライ 鮭シンチヤフ 鱒チヨイベイ 鯨コロ 鯨ヘロヤ 酒ソツカ 舎人ホロチセ 和人シヤモ 味噌トートイ 席ナヲ 氷豹エミシヤマニ 海獺トカリ
多あり 熊を海の糞を海の名を呼ふる 唱ひ云ふと 山犬 狼 狐 海豹トウ
ふる 神威岩 ま事と 岩 一を本幣より 流を 事を
神の手人方を 作 ふ 雲 ゆ 山 赤 色 し 山 ア 高 雲
高 岩 鮭 猪 あり 鱒トヤエ 小 名 式 上 を 流 ふ と 又 名 根 立 共 云 住 を 住 第 の 人 住 家
1 矣 城 敵 ち 以 し と 所 罪 ふ り エ ト 所 山 岩 を 住 果 陸 より る 候 ふ を 罪 所
イブエ川 名 式 フイウシ は を 流 名 あ も 高 き 所 と 又 案 岩 の こ こ も 立 へ り

川の両方平山雜木立ちサシトク所ランコタウシ所ヘツ子ルイ所ケ子ウシナイロル
ウトラシナイ所ニチヤクナイ所を上 新 の 宮 行 水 源 雜 木 立 ホ ロ ヘ ツ ウ ラ カ ワ の 方
ふる 奥 新 鮫 チライ 雜 帽 色 出 地 を 肥 沃 此 岩 の 土 人 時 を 重 罪 人 と 唱 た
山の間ナヲ チヤシコツ 珠 山 を 海 岸 を 磯 岩 間 下 を 所 ロラナイ 小 和 石 マヲ
ナイ 名 海 の 口 此 岩 此 式 ユ ハ ヲ と 云 ふ 下 を と 下 を 海 岸 崖 を 大 き 岩 を 嶋
海 の 中 を 仮 屋 立 ふ を ま き ひ し ま く 此 を 図 る 如 き 貝 石 行 る 生 和 南 氏 の 地 を 一 所 を 和
トベニ 漁 業 を 一 所 イカンタエ 小 本 名 イカシラン の 口 往 古 ま と 神 の 紙 の 数 ふ り し ゆ ん
号 を も 人 を 称 ヲウコツナイ 川 名 ホロヲ、コツナイ 所 ヨマウシ 小 政 現 あ き の 式
エウケ ヒラトカリ ま 山 岩 崖 ま を 南 風 の 岩 を 海 岸 を 岩 崖 を 高 り 山 を
ムコベツ 川中ナ 所名 原名ムコチ 今 仮 を ムコベツ と 云 故 を 号 を 土 人 名 住 居 を

[illegible]ハ[illegible]合成[illegible]ハ[illegible]ク[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ト[illegible]ハ[illegible]ト[illegible]ハ[illegible]ト

レロチシベツ　ルウチシベツ　ルウチシベツ　夜深よ　神居

川東　ホンナエブト　小名義小深の後ろ山山有　ホンナイノツ　山岸

舎所　ウラカワ　ウラカワ　ウラカワ

ホロベツ（ホロベツ川西ノ方ニ流レ下リ小休所アリ）此上幅壱間の廣野にして畑地よろしく此川を一見せんと思ひシヤマニ会所七月廿日（安政五戌年）出人八人（前表エミカト ヒヤク ホロヘツ ヒヤク）と雇ひシヤマニ川を上り同日夕方ヘケレメナ（ホロヘツ川西ノ方）より歩行して夜ホロベツに泊る　渡場ホロベツにて大川あり幅十間なれども水ハルベツ川を源神奈の岩より解出る故号しかるホルベツあり岸辺岩川両岸雑木多く（ホロナイ）西岸相良の門前より源小名多くウヌコ（作物多き所）西小川（名多く苦し）政吉と云家子大勢の山を置し孫と絶イチウシホ子孫ヲホナス小　昔ヤ方の者人家ナキ雑木生て林を和人共来て開き作る相模屋モリウカと云住居和人（ヒヤ）モ多く昔の時分と生名紋出る山越より川筋救傳分道筋朱座曲蛇行ハラトウ（ホトメナ）出人家ナシ昔共住居山下多く住し孫なり

南岸山谷多くヲマクシナイ　チフクシナイ　両支流をコンベ喜より来る樹木多し
ヲマクシヤクヌキ小ヲロヲマフ小　此辺又一里餘の廣野シヤマニ川筋より此辺へ歩行
ヘケレメナ（此名義的屈曲川の義人家ナキ）　此メナ　両岸家多くサツヒウカ（ケハウた生原ムコヘツシルトル喜を来る水
性透明なること実に不思議なり是地を重気なる山中金坑多し
ヲマクシキムンチヤシ（此山嶺の義なり）ヘケシリ（此上ヘケレシリと云岩峰を除き
山の義なり）此山金銀の気立故昔し神仏と寛文年間迄依ゆり重宝多く
入色多くと奢人者先乱よを廃色しとトブシた　ヲフイチヤシた　山上ハ株海と云多
ヒリ是寛文乱焼打よ来し孫と伯シヤマツケ岳（此山シヤマニ川ホロヘツ川の源
接する故号し孫イカヌシリ（此辺川原廣流救傳分道屈山谷を流奇

汙尊抔飲斷髮文身其俗雖陋情意甚親荒服

竹逸摹

策あり川巾二ツよりなる生涯の方七度ヘケレメナ三里

○東河（メシレヘツ）川巾十間生涯大器を造る所の家

家作時あるに凡五間ある所シレマシニナルヘ

此家の二ツよりなる故をラッコベツの方より到る

左をヤロマフ昔より十間の方より到る

○西河（シュンヘツ）川巾八間兩家小川家屋メフシトニ此

家も生涯の孫屋なるをタンチルベシ

小川をシケンカヒナイ此二股見上を

兩方とも小家屋なるをシルトル岳と云る

山より到るあり初の

傍境本屬日東撫字洵至仰我皇風立軒佐藤棹題

○中川通り（ナカノカワ）七八町ホロカンベツ此ヌットチ（ホロカの元）マシヨツカリ此家を初て

樹を見より山も峻く歩金窮住

フレチ此家を金を立角りへケレメナヨ

家を初上シトマイ此ハラシモマイ迄を

ナヨノシ、ナイ此キムンヨウシナイ此

せよ瀧より朱を蔵るはルウチシベツ此見

世をウラカワ方の山迄通りとソウカベツ此

タンチルヘシベ此山川メナシヘツヘ越ると

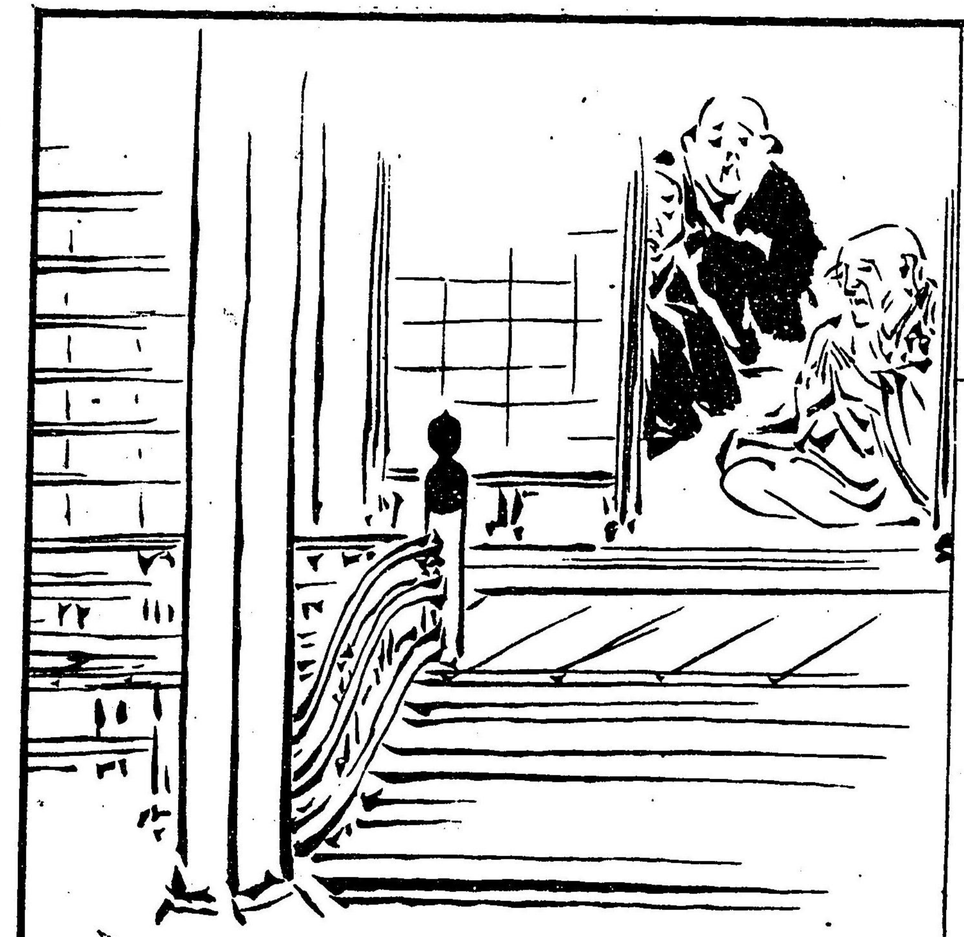
此迄高山いまく盛り瀧川より朱を蔵シ

ンホロヘツ昧生源神岳ヨリ到ルトコロ僕ヲ為ス故ニ名ヲ奚ト為シ
川東砂邑（俗ヨリ二ツ上ル）ヲ経テ八所フシコベツ此ホロヘツの右ノ二ツトマベツ川ハ此処ヲ
以テ境トス（俗ニ石狩四ツ名義ウトロヲマヘツヨリ名ヲ為ス）往古ホロ
ヘツと以テ境界ト為ス故ニ此ヲ境界ト為ス（イトハクテ中ニ）

シヤマニ

若シ代ヲ換ル毎ニ多クノ人夫ヲ要シ人夫ノ駄賃ヲ多ク費ス故ニ俗語ニ諸国ヲ荒ス
ノ義ト云フ（八所ツウナイ小）昔ヨリ置ク所ノ番人ヲ訓加と此ヲ
海ノ義ト云フ（八所ツウナイ小）昔ヨリ置ク所ノ番人ヲ訓加と此ヲ
地ヲ白沙邑ヨリ東南ヲ望ム（エリモ岬）ヲ元生眺望亭観云フ
去帆掛ヲ立テ残ル所ノ新ヲ立テ夕日ニ輝ク

七所ブユニ小本名ブイウシ（ホシボガマ）昔し焼ノ場ヲ取シと云フ人見ヲ
汐干風浪ノ時ヲ海岸ノ潮ノ時ヲ山ヲ上ル（マベエド弾フンベ）昔ノ義ノ義
家ヲ作ル崖生下ヲ望ル平岸ハ残家小具面ヲ二十汐ノ時ヲ岩ヲ小兵者
蹴剣ノ場ヲ崖ヲ山ノ方向ヲ含呼元ヲ作ル山ノ一傍ヲ（函館ヨリ）ヲ岬ノ上ヲ城ヲ築
フンベ（八所上ノ人家七八軒ノ方歩ノ）本名ヨタフンベ（注書合戦ノ時砂ヲ縄ヲ作ル生徒ノ場）
敵ノ来ルヲ待ヲ討出ス人ヲ切ヲ出ス（と云フ）ヲ沙ヲ捨シ坑ノ跡ノ
切筋上ノホロナイ（ホンフンベ）ヲ（チフタウシ）ヲルヘシヘ日源（シヤツケ）ヲ到ル
ホロヘツノシユンシヤモと一枝ノ茅ル山ノ上ヲ南ノ畑地ヨリ樹木面
沙濱ヲ（キリシタン小本名キリイカシと云ヲ）切ヲ丹宗ノ首ヲ（ヲ）ヲ見ヲ
満潮ノ時ヲ山ヲ（二ツウヒラ小）大岩ノ影ヲ見ヲ一傳ノ離ヲ下ヲ安ノ岸ノ異



四代慈縁大僧都を山門千葉院に住し東名凌雲院の手代を勤めしに田安一位公其洪徳を敬依し生才国家経済を委しかと以て創業の仕へを此寺に住職被仰付しかはさの主人ふるく和南の教化に引きしに生徒豪羅方を主人とあくまでもすと馬を取ケし諸民の難渋一方あらんれを見と待らんとすると却て身を害ある者

まうと和南
仏殿の戸切
ひき給の怒
はるる内て
悠然と十念と授け
ひつと熊心をゲる位頭しを
徐ろと山を入しうは行処を
ひしに曾て人馬を害ふことあり臣と
僧都をうち信ぬ戸徳中の再興をふし
川越喜多院に対し還化を此和南生産
憤鼻渾と足袋と人をるる無き色を臣と無

重臣と成は
此熊当るう
門に入来

敷とも云ウトルサンナイ（浜ヤ）人家名越山の百姓の戸

歸鄕山等樹院原澤寺（本寺薬師堂　天台宗東叡山末　享和二年　右命を建立　入仏　文化元甲子年開基　秀暁　慈順　恵紗　慈縁　慈潭　慈鎌　亮堅　德善　廣道　現住）

東照神君の神号を勧請し安置せしが　代　慈潭の時より恵紗の代に自立心院の宮に移りし　出仏せし此寺の時より　慈潭の時より　義濃の国の住園室　小巷と称ひしと云ふ　此寺の時より　慈潭の時より　返上せる　坪　建年百千二坪を立　内　種樹　観音堂　千体

仏堂を山田原に移す　建立あり　此辺畑田民家皆砂なり　沖

なり　綾浦の大船湾に蓄薪の地あり　送ソウヒラナ　十二ヶ所ヲ　十ヶ　送ウラカワ　金剛　三ヶ

シヤマニ　會所　通ヒヤ　祇園ヤ　今ハ　義ヶ　橋ヤ　伽藍　松玉社　馬十　新宮ハ　大工山　蓮山

様似　地名エンルンあるをシヤマニヘツと往古土人と事ありし故なり此故に名を松宗

家住蛸壺藏人の給所なり　此所雲南の一陣にて河内の幡鉢宗ホロシヤマ　大ホン

シヤマ　ホンと云岩あり　風雨甚だ妙なり　船を出中の風に入る　世宮の風に出帆　東北なる

山なり　此地畑紙を産し　土人　又改　安改　寛改　土人　村面　産物　鰯　鯨　鮭

昆布　蒸海鼠　布海苔　磨皮　生の雑魚　国

物産　ハ　ハ　ハ　郷　の　ハ　ハ　の　海　の　岩　の　峰　と

此辺　坂　越　越　下　シヤマニブト　門中　ハ　ハ　ハ

故ありて人し畑を隱元豆黍稗粟麻烟草も紙り淀色赤楊柏桑等の中を歩行するにて平地なる所多くは萩女郎花咲乱れぬとラヲマナイ小牛此邊海岸平地幽静なる処と実切人越りやルチシホク小名義詳載の後従ホロヘツリ第越道故あり人家四軒ありてサルマウ小牛小牛者萩多名義前者詳載有後イサカナイ小牛原シトマヘツ岳

落日

ドイとて人生土白き故なり二ナンナイ小牛此邊海岸に高崖なる樹木深き磐シレヤモヲマイ小牛往古金化蕃地時和人多く住居と依て蕃地キナシベ小牛此邊川筋狭く高ク チカシトク小牛海山モヘツ小牛ヨコトマフ小牛名義ヘテウコヒ二役従是西川東川と分る所の大会所を家一軒し西川原の大会所と唱る所の方メナシレヤマニとて人勢高崖にて岩嶮巨石根底拾帳先相図しクチャヲコマフ小牛二

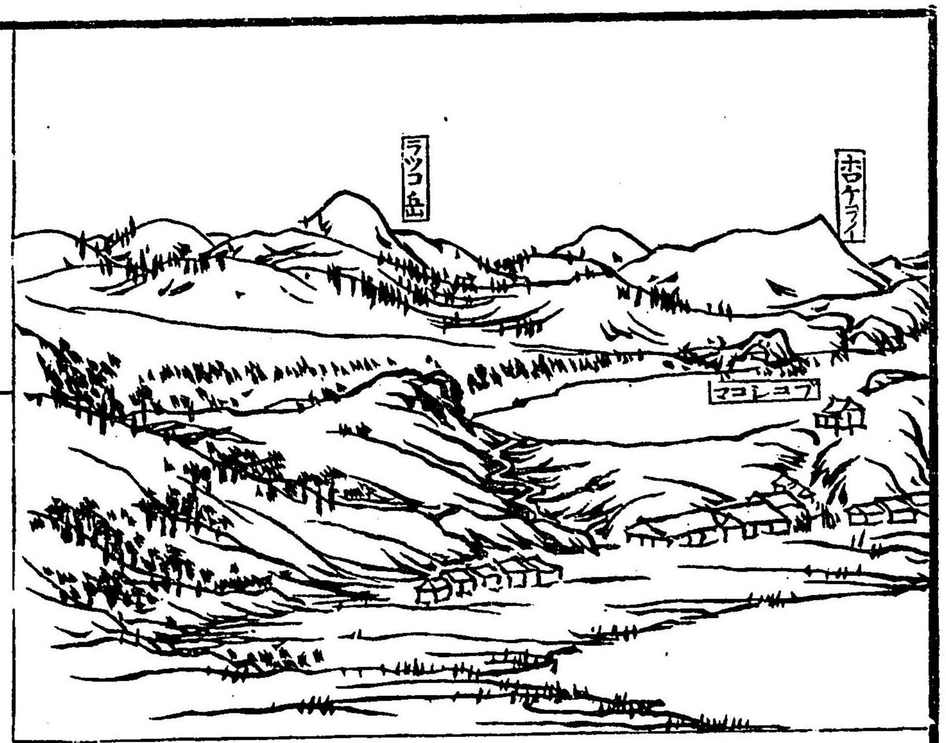
涵彼影風寒采藻舟山海皆異様不識是何州

能監

南

シヤマニ會所より
エリモサキ眺望の図

サキヨル此山頂にて樹木刈開き
高山より數條の分道有り
〳〵高低ありウトラシユヲニナルべし此ウトラ
シメナシシヤマニ在シヨンノヲニナルシべし此シ
イニナルシべツ此山より西の方に
ラツコ岳高き岳と唱ふ此山方に
雄と雌と有り雄は樹木なし雌は
レユンシヤマニと云山より西へ
ツラマナイ此山ソウシシヤマニ
シヤマニ源をヘルフ子十條ばかり有り



おしたし碧の所家流川数十條集て
此川を南へ出て海に入る此山越をヒロウ
ラツコヘルフ子等人越出と云伝へ
雄鹿の角を鋸にして皮を
剥ぎ肉を食し皮を敷喰せ生皮を
ヒ人生肉を搾汁を
雄しとて一向搾んを見ず花蕊の
和らを足出るの世なるへシホツを
所家山より又ニナンナイまて
ホンウンベの川端に出る樹木ホロフン

べ（ヒガシ）砂川（スナカワ）チフタウシ（ヒガシ）ルベシレベ（ヒガシ）枝川（エダカワ）あり　坂を越て二ナト（ニナト）エウシ（ヒガシ）ロヘツ（ヒガシロヘツ）の枝川（エダカワ）を渡る

下アツベツ（シモアツベツ）ホロヘツ川（カワ）より出る　高島（タカシマ）本立（ホンタツ）を土地（トチ）と肥沃（ヒヨク）

東岸（ヒガシ）を起沙（オキサ）渓（ケイ）堺フンケトエ（ヒガシ）ルベシ　十四町（チヨウ）カ子カルウシ（ヒガシ）ルベシ　此（コヽ）を道（ミチ）元（モト）とす

扱此石（カヽ）者（ハ）と云も寛々（クワンクワン）能の内（ウチ）を廻（メグ）る　一軒（イツケン）ヒラウトル　崖（ガケ）を沿て

石（イシ）累（ルイ）々（ルイ）を雪崖（ユキガケ）岸（キシ）に出る　遠（トヲ）く望（ノゾム）モンベツ（ヒガシ）ルベシ　此（コヽ）より多く樹（キ）を

望（ノゾム）て渓（ケイ）形（ケイ）申（サル）の方（ホウ）を向（ムカ）フシヤマニ岬（ミサキ）　チハトイ岸（キシ）　一湾（ワン）を成（ナス）

舟（フネ）を乗（ノル）べ　ものすごく物（モノ）すさまじ　やがて舟（フネ）を寄（ヨス）る

川（カワ）南（ミナミ）岸（キシ）ウエンヘツ（ヒガシ）ルベシ　ルトラフトユルクレヤシレナイ（ヒガシ）ルトラシレナイ（ヒガシ）

原（ハラ）近く概（オヽ）て長続いて芦（アシ）を隨る国（クニ）といへり

演（エン）説（セツ）の時（トキ）石（イシ）を悪（ワル）し　ケシラリヤ　孫（マゴ）ホンサヌシヘ（ヒガシ）ルベシ　此（コヽ）を境（サカイ）とす

出稼（デカセギ）立場（タチバ）る　此（コヽ）に蕎（ソバ）き内（ウチ）を注（ツク）是も新（シン）を入る者（モノ）　六町（チヨウ）平（ヒラ）サヌシベツ（ヒガシ）ルベシ　名（ナ）ヌサウシ

ベツのはし　海（ウミ）を木場（エナラ）多き故（ユヘ）　一説（イツセツ）エサウシベツ（ヒガシ）を昆布（エサ）多き意（イヒ）と　一町（チヨウ）トンタ

ベケレ（ヒガシ）ルベシ　名（ナ）ミブユカシユマ岬（ヒガシ）は知る人多る石門（セキモン）有（アル）故（ユヘ）名（ナ）と聞（キヽ）

扨（サテ）此（コヽ）に来（キタル）る者（モノ）は鬼（オニ）を恐（オソレ）ざる者（モノ）　必（カナラズ）涙（ナミダ）を

ブユ（ヒガシ）と云（イフ）　宮（ミヤ）の名（ナ）シユマ（ヒガシ）を崖（ガケ）　海（ウミ）を崖（ガケ）岩（イワ）に縋（スガル）ごとく云（イフ）　一町（チヨウ）ライクンナイ

（ヒガシ）海（ウミ）を石（イシ）僕（ボク）と云（イフ）　水（ミズ）深（フカ）き者（モノ）故（ユヘ）呑（ノム）を石（イシ）僕（ボク）　此（コヽ）を多き故（ユヘ）　暫（シバラク）　一町（チヨウ）ヨツフ

ケウシ（ヒガシ）ルベシ　此（コヽ）を道（ミチ）　是（コレ）を山人（ヤマビト）多る　注（ツク）者（モノ）を汲（クム）　海（ウミ）を渡（ワタル）　故（ユヘ）

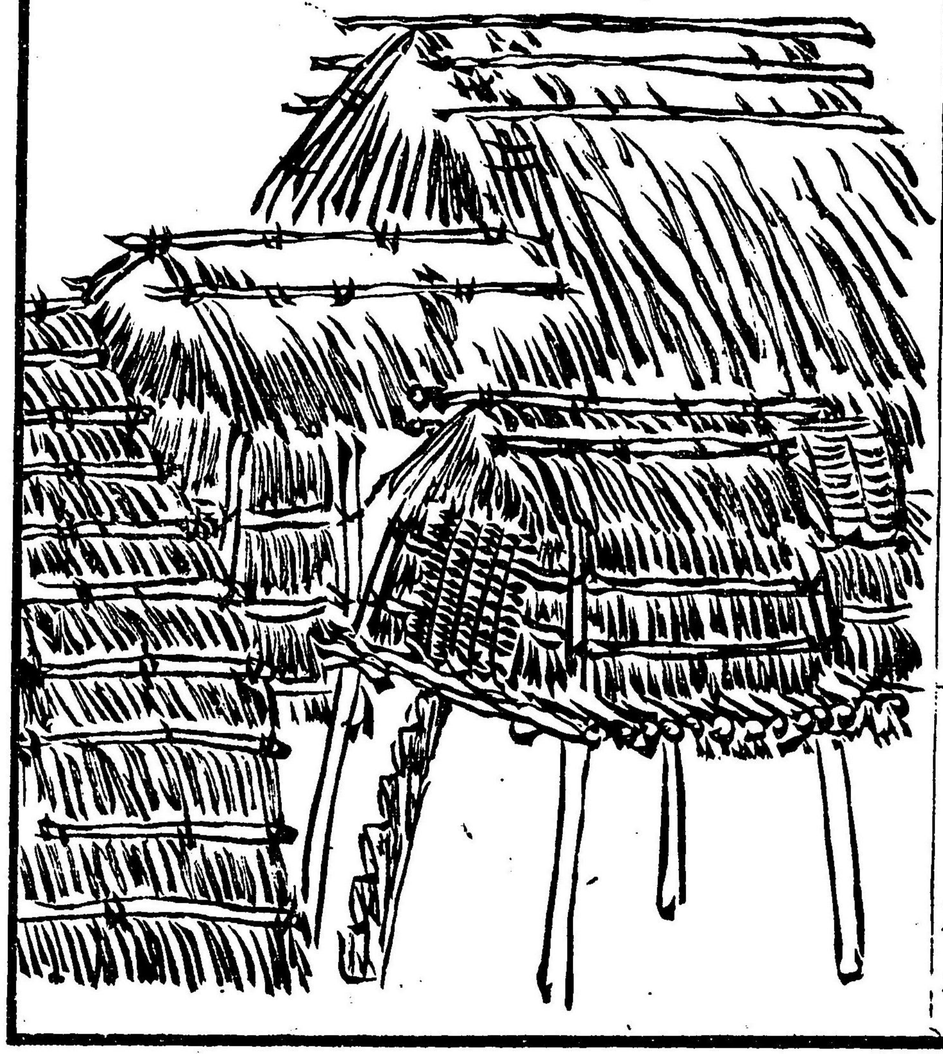
注者（ツクモノ）を貴（ヒト）と為（ナス）　注（ツク）者（モノ）の孫（マゴ）を者（モノ）　文化十戌（ブンクワジツジユツ）年（ネン）の頃（コロ）　近藤（コンドウ）守重（モリシゲ）　切（キリ）

一株（ヒトカブ）の碑（ヒ）を立（タテ）　松前家（マツマヘケ）　後（ノチ）　年（ネン）　碑（ヒ）を石（イシ）　拓（ウツ）

一枚を得（エ）て今（イマ）　考（カンガヘ）　考（カンガヘ）

崇神記ニ神庫（カミノホコラモ）階立（シナタテ）のことを者を今此地の庫（クラ）と云ふ
その我奥羽ことを
昔此庫のことを
神社と見ることを頗る
古風なることなり

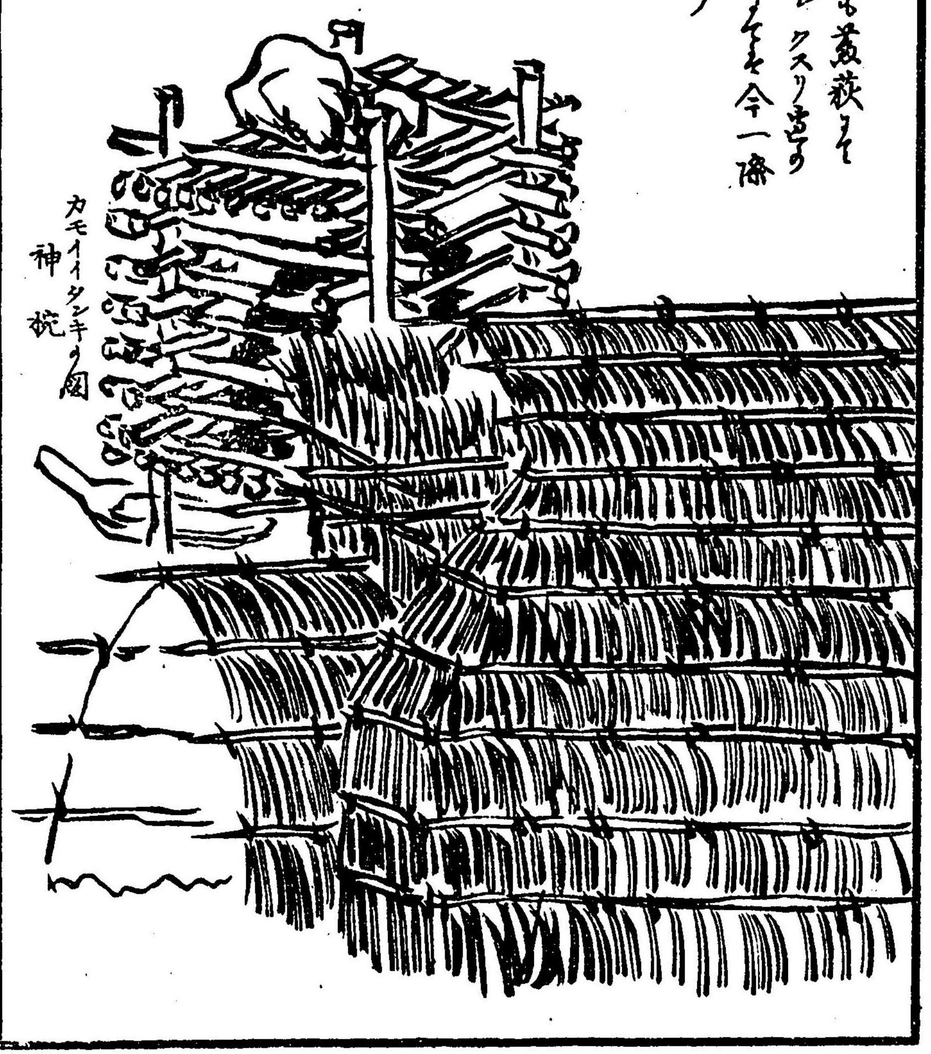
此家の立様を
山越内より
ウスブツ岳まで



シヤリキキタイチセ　葦を蓋萩を
菅を刈り子モロ　アツケシ　クスリ岳の
作り様是なり子モロことを今一條
破風と大く作るなり

カモイチセ

カモイことを熊のことなり
チセを家雪中山より
熊の子を捕へ
来てみれば木と
組立牢と作り是を
育て終夕喰物を如
図物を入ることなり



カモイタンキの図
神祝

おほへ

このみちあはまとおりテレケウシたゝひよチコシキリとうゝなんぞよ
ありてまうらいのものたんきすゞまきようてうたびあたまひ
きたるあいてこゝちまうらいのものひとたゝす木一ぽのさゝおりと
まう来ゝしてなゝくまうらいのたゝとうかゝ屋きものたり

寛政十年午十月

近藤重蔵

かゝ此日人の切と望段ませ生色と慶しを祈く岩花を不老たゝしめ養生を異よし
只自家一箇の養のみを欲しくるをそうたくれを博物を小体なるまゝ家ぬ
陸奥をおくるおのらまぬ人天の言をまたまゝ人のゝ行ゝ者

如此二日仮名ノ[illegible]ハ[illegible]守重ノ儀感ヲ[illegible]人し勢ヲ[illegible]ハ[illegible]ノ多ハ[illegible]
ヲ[illegible]ハ[illegible]生事ヲ夫人ヲ[illegible]ハ[illegible]ヲ守重ニシバ[illegible]ハ[illegible]元和人[illegible]ヲ[illegible]立ヲ[illegible]し
生故ニ[illegible]ノ殺人石[illegible]ヲ[illegible]ヲ夫人[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
ら[illegible]ヲ[illegible]ヲ故ニ生ル人[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
の名[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
コトニ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
コトヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

以李蕭然
劫瘦肩觀
風骨極步瞻
天表因鮫鯉
分嵒窟食
之然羅爭
海魚鱗莽莽
無畔生草
木花花美至
少炊煙當
年拉子葉
開墾袖手
望言見瀑
泉
製亭補生
章

庚午上
元前一日宮
於水雲山
房花書
法安
我古山

コトニハ昔し秀衡留と今是有山ニ金有ヨムケヘシ十ケ首しをシヤマニ
ホロイツミの橋ヲ造ル之侍ハ十二ケヨベ二ケ平ヘ工ヨイ峠ヤ岩ヲ大難ニ成ル
岩屋一ツ有十八人ヲ坐ヲホナイツバ岩屋ヲ一傳の瀧ヲ有ルブユシユマ
洞ヲ岩屋侍ヒ一ケ所チコレキル岬チコヲ有シキルヲ攀ルヒ事自
然ヲ踏拳ヲ通ル成有ル此ヲ大岩岬岩ヲ白ク通ル人
人ヲ通ル生引ヲ孝ヲ考ル色岩ヲ文ヲ侍ヒ侍の者の城侍文ヲ
汐ヲ岩ヲ走ル所ヲ人ヲ侍文ヲ岩ヲ侍ヒ文ヲ岩ヲ侍ヒ文ヲ岩ヲ侍ヒ

川筋岩山高く高コマモナイの東流あり想ふに此処まで海岸瀑布あり
何れも奥と異にして生産系いろん方図依て載る情況を生望の図を
いと殷盛の土地系人を以て[illegible]冥きも似たれ
大岩坪土人は夷上を[illegible]磐を見をチハトイ岬と云是者この険あり名義
汐干あるを以難く為を方と云義の図 ホロマベツフト川 ホロマベツフト川を渡西岸ふ
小休所よを小船にて近を来りしを[illegible]人を比嶽の[illegible]て仕を望へ
以上[illegible]を小休所の様子[illegible]
わしし船乗[illegible]
[illegible]川南岸 土人を人家を此川 [illegible]ホロイツミ傾あり[illegible]誰も此処を張さる故
[illegible]旅人雑居[illegible]和船[illegible]

冥の内[illegible]
[illegible]人家[illegible]傾[illegible]和船[illegible]
[illegible]シヤマニ場所を商士[illegible]
此和船を[illegible]今をシヤマニ[illegible]
水泡と[illegible]
[illegible]人のあるぬ人の[illegible]
[illegible]の中にを[illegible]の前方 ホロイツミ エトイフイサシ シヤマニ エミカト を富をを[illegible]
の平野枝幌敷磐送天望を[illegible]ホントウ図 [illegible]
ホロマンベツ ホロマベツ [illegible]
[illegible]又此川[illegible]の高山の[illegible]方飯も云[illegible]エミカトの[illegible]水勢[illegible]

板ともいふ何ゝ是あるいは茅古方面地左崖あり又ウシ城坊と越て方ノタエンルン
岬行屈曲して岬となる旅キンマノタエンルン山北崖山の樺岬を集て板
号く此上をアハウイ音といふヨロクンナイ沢イフイウシ沢小向コエカタイフイウ
シ沢アホイ沢元アハウイ音より第一般号く川筋此邊巡て宮を第
急流あり鮭網繞チライ杜又奥面に出て ハンケニチ沢ヘンケニチ日巡て
大出立山まあるあり周家恰も堂を出立ホロケヲイ沢上るホロケヲイシリ
高山と云山有向ヲニナルシ沢此所又若とる小魚けりフウレ玉赤皮ケトレヒ子ツト玉
ウクツチヤ沢ヲヒラソコマフ沢サロマイ沢名へテウコヒ二級生原云をラツコ左
アホヤリ音といふ山上を第巡て湖山及葉和様本奥新鮭牛のよしく
孤嶮上を前周の音此地より新しと思るウエンシ中に

地と林を交て山谷を水に分て流るつく鮭孵化場を設る
海岸岩山強き出て色ホンタ小岬元より崖の下破岩岩ナカ平ウトルサン
ナイ沢小角山の下を下ると云此岩崖崩落を動て危きあり四所チカフナイ沢名
義奥の深所サヌシナイ沢小鮭多き義あり所ルサキ岬岩日一処を名を塙
二カンヘツ沢ケレ平ケ平て蝦夷塙を除あり二方の塙抗けり抗ウラカワ抗ムリナケ平ケ抗シャマニ
金ホシ二十二所 境のことを第るいつとくヨムケヘツ沢を享和元年
年間和乙名 巡乙名ヘチャントカ 拓乙名イナンキロ 熟中段トツイクンテ 小段イタクチヤロ 矢合を設し樹を周和乙名立
今を奪る稼る厚宝色しを仕殺此昆布の上る張様の地をシャマニヘ
巡て和と問ふてホロイツミ坊ホを出人少して周方の山色を交て周る
板シャマニヘ巡て為るあり此の様る昆布の出張ケ第を中を和へ巡て

[illegible]

田畑を開く時は海岸の[illegible]

[illegible]

亦ぬ

この國を[illegible]

東蝦夷日記卷五編終

頃日余與松浦判官飲謂之曰夫内外之事一出内慨王事首唱成今日之勢者高山正之等其臣人歟朝廷推其功叙至祿其子孫宜兵外患邊疆跋陟昭嘗辛苦者判官亡今俄羅斯之迫業既甚兵苟遲緩費年月不幸有若金甌一缺則當途人不得不任其責然幸有判官胸中既經羅之經營布

置殆成其緒將視奏功有日推之
無非判官之功者故余知判官
之子孫亦不饑也判官大笑囑大
蓋曰日誌第五編刪將成可以為
跋於是乎云

明治三庚午仲春日

辱知廣澤安任撰

北海香溪山昇書

東蝦夷日誌六編　全

第八　全七冊内第六

東京圖書館
和書門　類　地　函　架　號　冊
一　三　三　二
三　四　四

東西蝦夷山川地理兩紀行

東蝦

誌六編

類紀行
屬廿二
冊
函十八
第三の部六

多氣志樓藏板

東京博物館
明治九年一月購求
東京帝國博物館

神聖者出西南物德化漸被東小隅文教千年日
所輿地畫猶恨極北極東地土彊未
闢君信附接境鄂羅自沒吉守倭小海計亦粗
勢物奇土松浦子好遊千里因入鄂汗漫敢此窺
國寶性之所好固在此歷夷海內姻等奇自此
獻然向為夷前手省到哈布土的鄂更赴越角
魯夷地廣漠夷民蠢蠢吏何方能表揚聞見
所得滿眼壽要為廟堂供採取嗚乎壯志壯

遊世無匹一帆破海氣凌超忽不願弦蹇歸東方
封侯空若只厭閑乾解海能窮五大海

送

北海道人小遊春尼新八代老敗語時
明治辛未中秋前一日也

湖山破人主慶

凡例

一此編シヤマ境ヲ二カシヘツヽ字を起シて縄泉ヲトブチ峠を経くサル、
ホロイヅミ
ホ出十勝領アエブシユマ迄を紀ヽ亟土形路余数度の紀行を摘ミて
トカチ
紀ヽるのみ

一編中トウニ岳ヽ登ヽ件并ヽヲタベツヽ濱通リエリモ岬の紀行を
ヽソウヤ濱ホ記リサル、當所ヽ岩礁ヽ多シヒタ、ヌンケヽトムチクシ
の海岸を紀ヽるは皆戊午の南岬志ヽ紀ヽ為ヽ是等の如ヽ依
例ヽ字を下て志ヽ亟ヽのみヽる

一前編ヽ紀ヽ様似山道保止編ヽ出ヽ如のトブチ峠ヽ十勝領ヽ
トカチ
所の山路余数度ヽ越ヽヽも敢ヽ関ヽ記ヽ戊午の夏日

世俗業を思ひ始めて近業市上の苦心を忘れ仏業の石礼を試み
作希新を図若此編を見て当二十年の苦心我堂に落ちんことを
文久四甲子のとし晩春於大江戸下谷我楽多堂主人

東海夷日誌巻六編

伊勢　松浦武四郎　著

縄泉（ホロイヅミ）

雖心倦身疲逢海毎好風景写〻彷彿の復るを知るを大陽の没るを忘るを孤
客〻〻寄〻事物変〻〻同彷の士或忖怒〻〻予意言依〻答て曰く昔時
李伯時善く馬を画く法雲秀禅師戒之曰夫れ士大夫画を以て業とする已ふ
恥るべきかな今や況や馬を画くに何を言ふ人の卑劣なるや伯時曰寧ろ悪
道に陥ちんと欲す師曰君筆頭の其神駿なるに一会を技に秀逸を
君之を忘れざれば異日必ず君の心神倦く馬腹に入ん伯時悔然その術を悔

鶴岳汲く小後多く親き薩陀の像を畫くと（佛祖 繞死）平坂義の好風素を畫き
〻神を中山石ふ堂〻ら来世此後小孝礼山水絶却督〻〻んと小後平ら
図畫を〻て小後ら事を咎〻迷さ〻〻も寺や海境月二カンヘツ（長活を分て城留）
北峯峯ら考く南岸平地名義ち二カウシヘツと云菜の百川と云後菜八嗅麻
菊獨猴桃の新し又ニヤンヘツまて川屈迄樹木有ら所とも云り（北名 解 苔〻）此
場所の土人ら皆七川筋ふ居ら〻（乙名リクナシ 脱乙名イブイサン）住ら
川筋少シ十丁上ら毛流ら毛山壓〻〻大石斗〻二殿（テウゴ）毛ら左リルベシヘ小川
〻ホロマベツふ苔〻は越道ら〻〻と合ふ〻上リシユマウシ小川ヤさみ〻上リヘタ
ヌナイ（左川）シイニカンヘツ（右川）苔ふ源サル〻山ら向ふ毛源根拓樺多く魚荒軽
鮭鱒多〻川筋人家跡多く又角器の欠雷斧（ライラ 斧）雷槌ら多く出〻〻上

畫程風光夕照間　丹崖紫峰
巒灣〻人工ら天工慶ふ
雲烟今日山　蒲原泉路ら思馬叢鵑
信

[illegible]

海苔小川（ノリ）へセトエ（十丁）辛ラ名ヲ提の所〜云チカユフ川（小）也処図路ナ名ヲ出る〜亟

事ヲ也〜若の枝を本ニ拾ノ附ヲ〜ヒ生候折れ〜ヒヲ生ヲ干係土人の出稼の

掛ヲ〜シャクコダン（泊場）名ヲ反場ホの候（十丁五十ラ）アユシ（小）川海苔（アヒユンテ）栗多き右

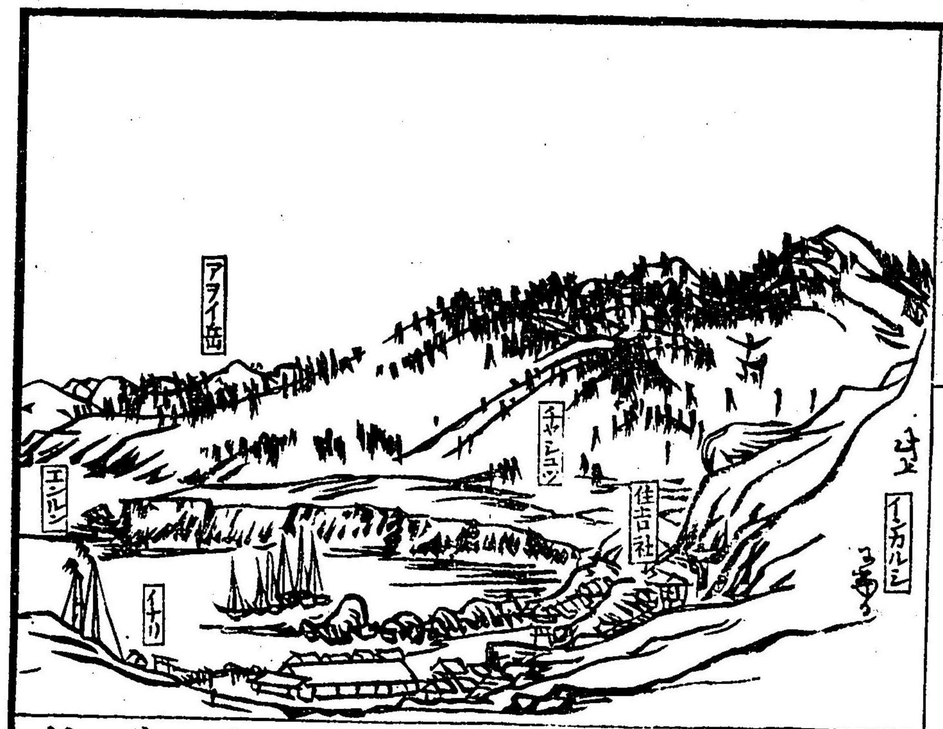
号く昆を結〜〜〜〜山の下（六）ホロウイ（小）ほ大陸の候（十三丁五十ラ）ホンウエンコタン（共て）

ホロウエンコタン（名）孫サ小魚を如の候（一丁辛ラ）フユマフ（小）ほ山陸ヨ海ヲ（エンコサウ）ヲ（フユ）ヲ右小号くと

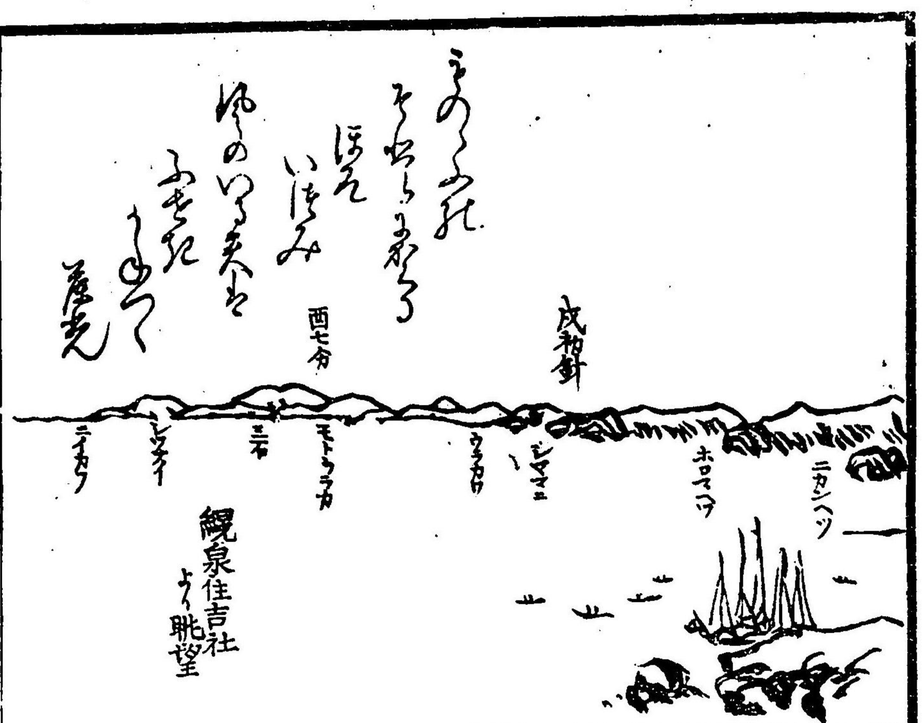
廿陸ふヤ〜ウシカマナイ〜云陸ヲ〜く物北〜ヒ由結ノ沒ヒ〜岩礁

〜〜陸の名ヲ北〜昆布小屋多く苔〜小家〜〜和人の出稼も多く出〜り

ヒ〜出相越の人〜〜〜の図入ひ〜〜〜ヒ〜ヒ〜ヒ



名義不詳ホロエンルンホと四の名を以て黄石の異名とし此地元松前家の居城時代人給地にて地後ホン岳と云山を湾の中七分向て流れ扨て新沼岳磯辺七八町五六丈千石餘を貯る船を入津未申出帆寅卯を以て定る土人（文政年改千九百七十人 当政寅改二千八百五十人）近比減せし黄石蝦夷酷寒の地なれ共幾方時酷寒の処に付て落て土産鮭鱈鯨鯨売買等拾算鯨等多く餘惠沢



第多く祭る所の地にて住吉社の外に奥恢夷口堀夷の境にて人員貢重武拾三文にて家とし其家の土地の産物を初め諸品の産物

ふ紫雲の雲ふ多く立ちもの絵

夷は少きのこと

扨ては上と崖下の海濱湾を呼う シラルヲマナイ 小湾 字の如く湾 ニケブウシ 小湾 字の如く湾 ハ丁十五丁 シユンケウシナイ 山合 名義の如く山の俗此処

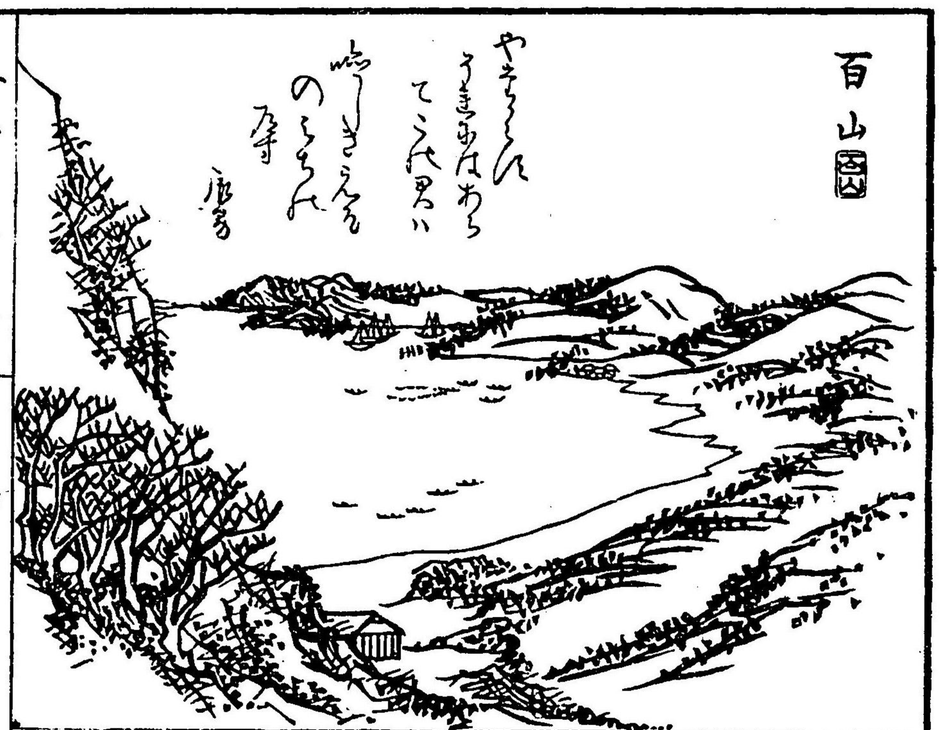
あふ坂の関ハ小川ユルフル川坂の子ゝ土処新名合せり山を出る所
ゝ近来新たに宮改十様とあの処切開ゝ　エリモサキの方そゝ
古ふ入るちり
海を山の宮を廣野を遠望ゝ無く擬松ゝして下草芒萩生り　十二ケレフル小川
ゝ川ゝラタ　ヘウ小前る　ゝゝく　十四丁モウセウシナイ小浦名俗蕁麻宮を俗小休の人家四三軒あり此を下ゝく
業を多くゝんゝ土事弐拾余ゝ結新末三名ゝと云雇足軽小結ゝ孔ハ四三年新生
をゝせゝる断ゝよゝく出来ゝり毎ゝ新生長ハ海鳥や宮の臭家ゝる処ふて出来
新を面ゝ世ゝ土地ゝて能出来ゝて考ゝれいを土地の仕俗ふゝる物ゝと思
ゝる是旅夷地ゝて能出を出ゝ起原ゝり　ゝゝ世終末生の新生をゝせゝ
ゝの新ゝふ結ゝ人ゝゝハ持ゝ捧ゝ海鳥の降ゝゝる宮孫ゝ宮の一ゝ島の極
ゝゝゝ地ゝ極ゝる業の為ゝ宮新ゝと出俗ゝの板ゝと思ふのゝ

富士見志摩五人会景
春潭

角宮志摩ゝゝ物ゝる
擬新の書出て
日本小ハ何ゝ所ゝ小道
ゝゝ変ゝゝり地ゝ
ゝゝて

提灯ゝ信義家指長

何神のわさふやすらんこの國に植ゑ生ゝる所の菜はそれ
ぞれ畑地に到る宮ゝ畑ともに処ゝ赤坂不の工人シヤマニと名ける畑作
を好く出ぬ地に到るおゝも好ものゝ志士いを附さんいろへ人家も去
年と年ゝ乙名イタヤチヤロ生活原面居ゝ未ゝ之必を畑を作るゝ
居ゝ家て成年の手間ゝ付て菜揮を畑小作り方ゝ之を不嘉桑の飛ゝ
菜畑ゝいるゝ出ゝ出の國も植ゝ生ゝ之ゝ出ゝ家ゝん
毎乙名の話ふ予ゝ動ゝ出く畑を作りゝ蕎ゝ多ゝて他國ゝ出ものを出
やゝく新小湾ゝ出ゝ六尺ゝ出ゝ高武ゝ予も出ゝ年ゝ七月過ゝ花ゝ蕎ゝ多く出ゝ不
夏蕎麦まゝ出ゝ之を掉蕎の出ゝ出ゝ出ゝ淋ゝ出ゝ出ゝ
石吹く小休所の柱ゝ出ゝ高浅生処東海岸トワヘツ之の乙名て標柱を立ゝ二十
二丁



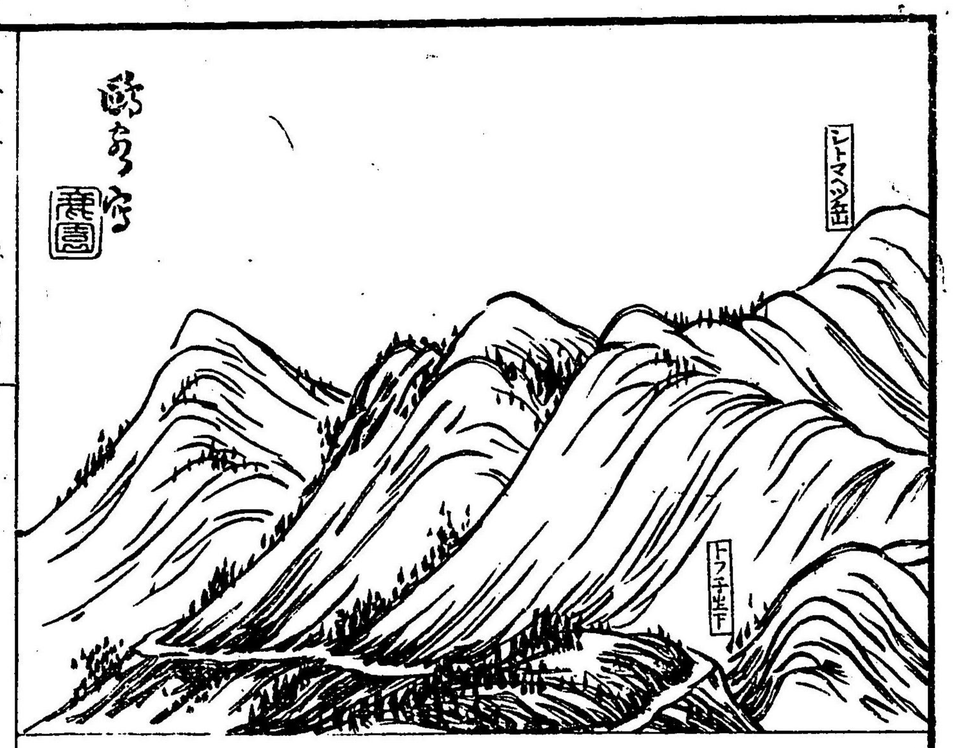
ラタヘツ 巧中 五る 峯小岩蹴濁多く生ゝ乙名
氏沙川之源を出ゝ出ゝ赤土坂樹ゝ不
ゝる乙波ゝ木之を出ゝ左の刀
アブチ岳右の刀エリモの方ゝ不望一面不
見出ゝ実ゝ大ゝの滝宗之
ゝ出ゝ之ゝ小國ゝ出ゝ
ゝ出ゝ人ゝ住ゝ千年
アブチ 名休石 ゝ乙ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ城ゝ出ゝ山
小蕨ゝ出ゝ乙ゝ名氏アツウシの紙ゝ出
椿ゝ多ゝ出ゝ出ゝ雪際ゝ附ゝ出ゝ山中一不

起義を称ふ吾此事の為小近藤帝上書を上ると回く山の麓を流れる谷一
つ城る（キヤ川シトマヘツヨ岩ル）弘化の時に此を小機道を方ら上を毋つの
拙も毋来しく中を号ふ号くして宝蔵石と純型如ちもらつ
シトマヘツ（川中ニシる名ル）名民シトマレヘツ小ふく恐ると云ふ土地を分ち西陣岩石
小号く号ふ谷川を又る屋也又ケ石を旅表相又来号有山猿志ふ一
さのふ様雷ふ山ふ号ふ小ふ小の作人ふ様ふ
トヨニ峠（左リトヨニ岳 右リトフチ岳）号ふ東ハを絶ふ岳を絶くトウフイヲホツ内 久摺の
方阿寒の支岳を以孫は寒ふせふ井を中ふ様ふを絶ふアフツふラタ
ヘツの原一目ふ西眺望絶ふ拙ふ左リトヨイ岳天を刺ふふを中ふ岳ふ
を中ふを弘化会通ふの附ふふ文化以或役人ふ岳に

を中ふふ五六分ふふく晴天急ふ降る山沼ふ雷ふ上ふ大変坤軸を絶ふ和
く雨車軸を流ふ生項を絶ふふふふ天保以ふふふ松前の家末ふ
岳ふふんと上人の沙を張く吉商中附上ふふ三合目中ふふふ大雨
盆を仮ふ自ふ戦寒ふく上ふふふふ方ふふふ死ふふふ上人ふ
ふふ雨ふふふふ

怪巖
還古
木幸
嶽直
摩天
欲識
世豈
ゆ次
親日
志編
鴻洲
彩

き次第にて所々にて度々十餘丁にて次第ふて所々にて内陸にて見えず高山ふは蝦夷地にも有る事なれとも高山にて所々に起出イソラムク土人エクレ土人の者人を呼て手有る事不思議の麦粉にて麦粉にて八十余才にて大光人白きアツシを着て弓矢を持黄金作りの大刀を佩き帯て枕元に来る余はトヨイ岳の神にて有ふ一の祈りの有る事外に往古にトカチ縄泉に土人ホロヤ本幣を作り向



御酒を持て赤山に持上て来て捧ける事を和人の家に来て直に一切捧ける土人等生涯の願の国の事の高山にて酒を供へ本幣を作りて持上て捧ける有る時は酒とエナラを持て赤山に向て左に廻る本幣十餘縄泉に大漁をなす川上にて往古の如く鮭の上る小生に又魚病も決て流行せざる有る事を以て事とトヨイ岳の方に祀り行ふ岳の上に金を以光り物有り

有〻と伝へて今り酒を株を持行へ〻とそこの小さ株の酒樽をく同志の山村氏と呼ぶものを世て是を早め出さて五年以降に到る馬を繋ぎ長く生長の方小上る小さ山を徳〻くを手を手を人の生人たるも上〻る石乃〻〻〻〻一人武人も生る岩屋生生中を分け行や岩屋生冠〻〻石知られるも下小大岩猿〻壹〻〻〻石岩屋小岩路入まる上小家〻〻〻岩屋〻〻〻〻〻〻も家〻〻〻生を上〻〻中生竹斗〻〻ソウヤ鍬見眼〻〻見御〻拒絶又半時絲小〻〻山八合目〻〻〻岩カムイトウ〻我〻岩中小方ゆく〻一歩を〻〻〻〻御中〻〻〻〻〻〻

ふ遠一橋の本邦もろく安堂の土人も近きに一向上ることなく拙小大古と土人
共ふ爲小時〻上り出たるを樣〻山作り〻ぬ〻岳の形狀〻樣〻ぬく見るる
淫星子丑の方ヨヒロウ（ルフ子十勝の川筋一面小見と成亥の方と奇怪ミトマツ
岳小滿てこれ七星を飛却と絶〻て西と工トモの方まて南〻て果も知り難
き大海原ちうなて石殺と口碑とぬ

ちこ〻ひとつ〻と勢のあるこれ中ちうこれ也稱の煙乃ぬ出もいつ〻ぬと
越白アフチ岳トフチ岳眼下小〻く怪も如波濤〻奉幣〻て日本帳夷越國中
大小神祇ちうも登葉仁大權現國家安全風雨順時五穀成就大漁萬民道
中安全祈〻も怪奇せる紙〻と言〻ふ祈祷〻てこれこと〻ふ虎〻若も
文殊〻の〻〻如く大雷大雨〻やと用云の桐油をて出仁〻やと百姓富士

の素走り小家〻ちう〻絶付小ハ合見合〻て及ひ〻ふ〻て絶の雨を晒〻や
絶巻の如き〻夫小儀の通り如く小何〻見〻遠〻遠く見れと人〻ふて有
〻〻ぬ〻山村氏〻〻〻〻と待〻金ふその〻〻我宮の雨を作て晒〻
雨〻ち〻我〻結居〻道乃〻〻〻〻の麦物絶〻岳の紙を絶〻く
金〻〻〻雨〻上〻〻ふて金も〻く糸絶をとけ〻はそ下り
〻絶〻〻〻〻ふ〻て此山の神乃いとを〻〻〻〻ふ〻
浅妙谷の山の半坂の狹き〻乃小左カムイトウ（閑已一里余）と云ふ水初〻考〻〻（浅性来る）
係まて武
る余る　水色小蓋山の曖小〻る赤間國〻〻〻〻ぬ頃滅ち〻又流口も〻
見〻久摺領ち〻摩周岳の湖と同〻〻〻〻〻面一枚の鏡を浮も〻奉ち〻寅
1不只殘の湖〻絶〻く神湖と号く往古ハ土侍面〻の名湖の足面〻号説話

桂の樹〻多〻上流りね（二十五丁）無く迄まて杉根ホカ〻由ちゝを大ホ樹く
毒茶りね芝〻り山ちゝ〻と走ける（十三丁）七処ちゝく西天の付ハ元流迄て流
川を上ル〻（下り）カルシコタン（小休和）名ハ桂茸知と云て〻芝〻南部人来て
桂茸を採りと所と七宝り紀泰り雲の流迄ちゝ枝多く有〻ちゝ
秋ゆ宝と中〻ちゝ茸を〻〻名ハ木こゝ有ひ〻ハ流ちゝの品
サル〻ヘツ（川中十五ちゝ）秋名石川上ちゝく走〻往来小舟ちゝく往来の若自ち絲
て流ちゝ〻ち西を〻ち品迄〻ち後舟を渡〻ち名ハサルシホて芝〻七山中ま
鄙多く住〻ち石ホ号ちゝくサルシ住鄙の子〻川筋大木多く別て〻ホ根振ち
号秋江流〻ち付の流船を出て往来人の面も映ち斗〻（平山サワ）サワテクサル〻
川糸ハサル〻の乾ちゝ多〻（一丁）ホリサル〻（川中七八ちゝ）桂百サホサル〻川ホ流ち或時

杉の実以ちゝ〻ち流子杉ち子ちゝ流早芝ちゝ〻ち迄の紀泰ハ一付流ち子
ちゝて流ち石子数初ちゝ〻ち鶴の名絲付の名ちゝ紀泰ち奥の七二百紀泰ち芝ちゝ
本の品のハ〻ち〻と風ち本の性ち芝ち〻ち品の時と云〻〻余も流の水ち紀泰ち知
ちゝ〻ち〻ち〻ち〻ち〻ち限りハ山ち〻ち神〻中ハとて斧を四〻ち〻ち
川ち流て（ち品の内）サリヘツ（左川）又ちリサル〻（右川）ナンフケ（左川）ち桂茸石の住ち石〻ワウ
シ（流ち）カルシコタン（右川）タン子ナイ（右川）七流小川数流有雑鮭鱒魚性ち魚多〻
ち流流ち品ち石怪ち石多〻ち〻ち瀑布ち〻て分〻ち付ち断ち芝ち親ち
鞍ち左〻ち山ち流ち鞍ち石ち石ち〻ち杉木多〻（十一丁）サル〻ち品石元ホ到ち

○ち〻ち〻縄泉ユルフルち〻ち流道エリモ旦ち〻ち紀泰

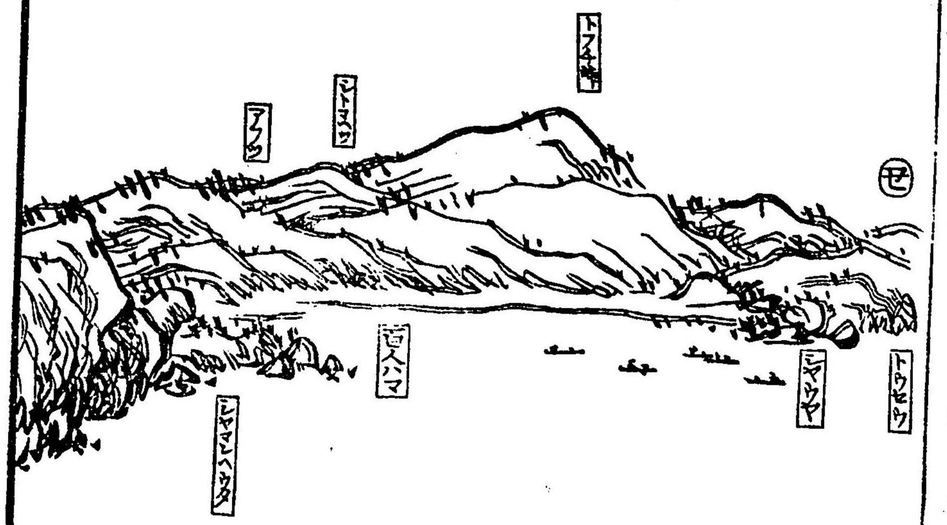
七月十二日服七名イフイサン馬士モンチヨを石ち生　エルフル分ち〻ち石流ち〻ち入ち

先手ハ長ク昆布小屋ハ海ヘ出テ建テ海ハ低ク昆布ハ
拾人ヲ家ヲ背ト云ハ岸ヲ乗ヲ入ル云ヲ乗ラル三ヲタヘツ川中五ふる 此
川上山ヲ越テ城ヲ二丁同ク崖下ヲ切ル
ヲタヘツ川筋ハチカフサンナイ 右川ケリコムシヘツ川ヲ左テ二股右ヲヲタヘツ左ヲ
シロウシヲ云ヲ源ホニホリヨリ来ル雑菜桃茶魚多シ
クツフル工 大蛇 平磯ヲ云ク約拇昆布海藻拇ノ上ヲ海ヲ原ヘ并テウトル
クシナイ川 小 山合ヲ右ヲ号ク 四丁三十四号 モエヲコロ 崖下 湾 此下ヲ長ク
磯ヘ生磯ヲ一小魚沢参ル住ク 鶴ヲ居ル又 ヒカウ 海藻 海髭 小貝 推ク 附昆布
海髭 海藻 茶 海藻 冠菜 ヲ 海藻 海藻 ノ 海藻 海藻 ヲ 海藻 海藻 ヲ 海藻 海藻 ヲ 海藻 海藻 ヲ 海藻 海藻 ヲ
モ小屋ヲ建テ住ヲ居テ此処ノ漁業ヲ専ク営ム

名寄ヲ名ホロエンルンと対ヲ名寄ヲ名寄ヲ真ノ後ヘ戦ふ
えゝゝゝ格の宝貝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝん
此処図を載ク 四丁 四十号 ホリトマナイ 右 岸 海 ヲ 海 形 来 申 文 小 来 ヲ 名 磯 二丁 サル ウケ
マシナイ 四丁 サル ミユマウス 大 右 大 名 ヲ 名 号 ク 山丁 サル ヲ ヘシコマナイ 小 不 并 ク 山丁 チヤ
ラセナイ 共 テ ホロチヤラセナイ 共 小 海川 共 ヲ 海 崖 テ 足 魚 ヲ 磯 ヲ 名 馬 ハ 陸 ヲ 足
余テ名ヲ生ク岸ノ上ヲ飛越迫戦ク行ふ 并 テ サカキン 并 テ ホロチヤカキシ
往古御目見十人此処ヨリ和ヲ乗ル処右ヲ右ヲチヤカキシハ御目見
の時の松ノ餅ヲ拾ヒ注ヲ来ル ク 大 名 崖 小 第 十三丁 共 ヲ ヲニタヽラフ 小 俗 本名
ヲシラフシと云ク十人共ニ同名ヲ名ヘ 二丁 サル エイシユマ 右 卯 岸ノ 右 名 族
ヽヽ岬ヲ云ヲ岸ヲ岸ノ磯ヲ名崖の上ヲ能ク行ル

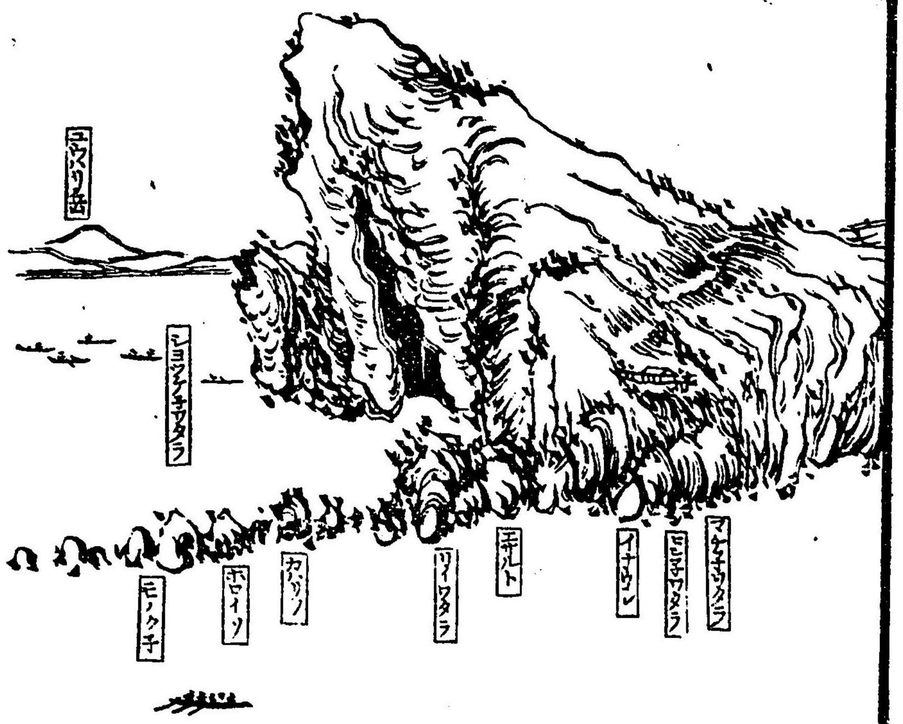
エリモ岬
真景

月沉初
樹暗
野逕後
人行



暮杉浦
主人写
真景
和字生

寒而雄
風亂
鬼燐時
滅明
雲有
散火



ヒンヂワタラ 岬 マチヂワタラ 同 ヒンヂヲ縦マチヂヲ横ニ略ス

奇怪巖ヲ石佛芋の子ヲ如ク阿羅漢の形の如ク石地ニ佛芋出ル

蓋覆の大石ヲ以ツ獨ヲ投ヲ如キ名ヲ冠ラセ出ル法ヲ

北ヲ向テ巖石鬼ヲ成テ佛像モ多ク有リ海ヲ

七丁 リノンエントモ 岬 名称法華ノ如ク上ヲ

廿五 ル眺メテ眩クル百羅ニ生地数小角ヲ大ノ如キ紛無ホの形場と

第ニ 字猫ヲ[illegible] 昆布小屋ヲ 湖濱 八丁 十五 チカフノコエキ 岬 鷲ヲ[illegible]の像ヲ

岩屋鷲の窠ヲ[illegible] 或丁 三キニ五 ヤンケベツ 小佳湾 海ヲ出ル海地ニ 八丁 サル ヲチヨロワケ 三丁

ナ シヤモ岬 岬 上ヲ載ク ホンスル 岩 塊ヲ[illegible] 三丁 罩ル ヒリホク 昆布小屋ヲ 和 船ヲ[illegible]

人アフラコ海ヲ云ヲ内地の珠鞍(アイヌメ)の[illegible]ヲ奥多ヲ石号ク夷云号ヲ

シリホクヲ云アフラコヲ知ラ第彼の方言ニ小笹原柳木一本もヲ[illegible] 地名

ヲ[illegible]ソウヤ 又海岸通リ船ヲ石碑船ヲ雇ひ[illegible]ク岩屋有ル 九丁 チヨトマ

ヲ[illegible] 昆布小屋ヲ チヨマトマリヲ云大岩屋方名称恐称ヲ生ヲ石ヲ云土人ヲ

事記ヲ必ヲ神海木幣ヲ持ヲ生大海ヲ祈ル[illegible]ト 十三丁 幸ヲ テシ

ケ平 岩屋の後の元ヲ云後レワハモエ 大岩屋 高千丈 小湾ヲ知ル樣ノ[illegible]ヲ見

ルヲ[illegible]エトヒリカも一部ヲ[illegible]ヲ土人小富ヲ近来異ヲ[illegible]

ヲサンヘワタラ 岩屋 并ヲ[illegible]ショワケワタラ 五丁 世ヲ 仏ヲ大岩ヲ高気の地多

外国やヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

エリモ岬 ヲ生北ヲ 一の角岬 名称入嵐の後ヲ岬ヲ[illegible]ヲ地ヲ時嵐の後ヲ[illegible]ヲ石号

ヲ[illegible]本名ヲランヂエンルンヲ云ランヂヲ大の大ヲ[illegible]ヲ云エンルンヲ岬ヲ出ル極大岬ヲ

風巖安房石塔を作りこゝ中ふ小社をこゝかトコマチ子シユマ 才七の岩ヒンチシユマ 才六の岩海中ニ岩を立ソウヤトセワサキ岩く阿寒の両岳を施し西面ハ大ノ張ヒヒチヤリの山ゝを立ゝ風系ゝ立ゝ云ゝ板海中よイナウシ 才五の岩エサレト 才四の岩リイワタラ 才三の岩ホロソウ 才一と云ふ俗ひく岩出ゝ先ニモノタ子 陸地ゝ云ゝ大沙の付ハ又一ツの岩を現ハ出岩孫九一里も海中ふ突出ゝと依く田船出岬の立ゝを赤ゝと云ふ沖より絶ゝ陸地ゝ波浪の岩ゝ立ゝ船一ゝ形ゝ立ゝ又面ゝ岩ゝ具布ゝ生く海ふゆゝゝゝ怪ゝ海流の間ゝ深ゝゝゝ怪ゝ土人ゝを工リモ都の口繋ゝ立ゝ船ゝ陸ゝ生ゝゝに岩ゝふり生ゝ釧ハ花貴字ゝ毎ゝ立ゝ波浪ゝ岩ゝ毎ゝ立ゝ岩ゝ波浪ゝ岩ゝ波浪の口ゝ立ゝ岩ゝ

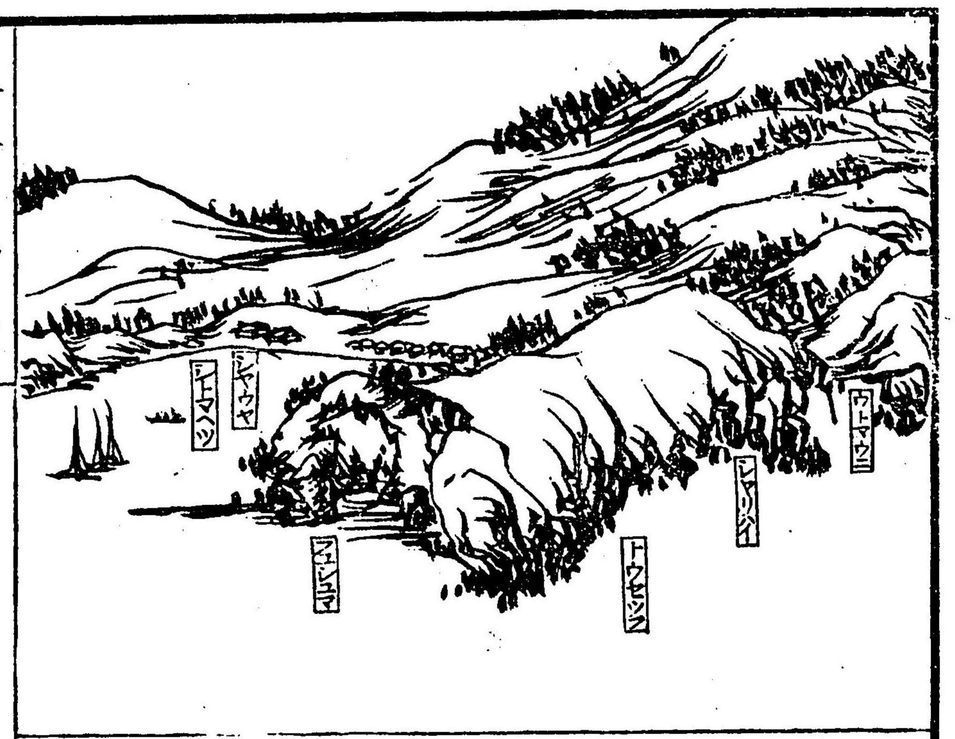
宋谷濱之真景

文信寫

五六百歩岩角を攀躋シヤマンベウタ（浜）名義比目魚濱の義ニ注ス又
岩崖（十四丁十三町）フラリモエ（昆布小屋義）沙地北の外出る名義臭き湾の義土地昆布多く
折おく腐爛し臭き故と号く（二丁半町）ヲコシ地往昔ヲコシチユウフと云異魚流
逆ふ〜故号く（茂屋一株 蔵方倉義）ふく（二丁四十町）ホロヲコシ（二丁半町）ニヨムイ（小湾）木湾と称
もシヤクバイ（十一丁半町）ヲコエマウシ（崖ヲ屋ヲ 滝）沙地歩行よし（四丁半町）シユマウシ（岩 岬）フウレベ
ツ川（小崖より魚水流る故号く）（十八丁）ホヒラリヘツ（并）ホロヲリヘツ（小川 雨天ちう）
てゐ〜（十丁北町）トワベツ（小川中三町）よて沼有名義トワンベツと云〜〜ましトワは
蕨の中く蕨多き故ともかう海辺を沼をシイトウと云〜名義蒲（シイキナ）多き故
号くも云（十二丁二十町）キシケ（沙地北）ろて（十三丁十町）ヲトンベ（六十世町）
アフツ（石川中三町半）土川山辺の屋石の外より来る故号くシヤマンベウタより堅沙

辺之を百人濱と也名も生義芸〜一衣の時化一大船多く打上る夫
百余人死〜を埋〜も又往古縄泉土人十孫土人と戦て其死骸を埋
〜ふ〜り碑寺本方〜由て日の義を拾〜孔を拾〜得を去ね
ふ〜く山辺の道と出合（十二丁五十町）チヒランソウヤ（昆布小屋）そよふ小石濱ヶ岬を
越て（八丁半町）シヲライ（昆布場）岬を廻り（五丁半町）ルウランソウヤ（小湾岩礁）注ヲ〜ヲフチ〜山辺
有り小石濱ヶ切く
シトマヘツ（川中三町半）是山辺て越て下流へ岬を廻〜シヤウヤ（岩礁寄屋義〜義 出稼三年前り知る上）
鮭魚多く玉松恵の地〜廻船も五六艘ち泊る秋山氏も〜改めて出役
せ〜れ〜之夜入る〜も故て一匹も来〜も快く寝る也
ひ〜ろ〜ものを〜を見ふ注意し〜ち用彩〜〜〜蝦夷の海面

十三日秋山氏い注見山岩を見て余ハ
濱の方ふ向ふ 山岩注見シトマヘツふ 出嶋を越てサルくふ出る 小石
濱 九丁 五十町 トウセツフ 大岩岬 岩方 岩を エリモの
見事の神を岩を〻〻云伝ふ又イトセフ
も岩を恠と云義ふ又ヒヱをフヨシユマ
も云〻るく ニヨムイ 小湾此名より崖
無滝壁〻集り〻て岩系ふ 十三丁 半分町 ホン
フシコツ 武丁 三十町 ホロフシコツ 昆布場 岩多ふ〻
の地不有名号く 四丁 サ二町 ホンサクハイ 川有 急流
并く 四丁 サ二町 サクハイ 小川急流 昆布場 七丸ソウ



十岳の東南ニ當り海をを〻〻ウト
マウニと對せ〻て岩石を城 八丁 半町 チセ
ウシ 大岩系 昆布場 と〻て西注有中を見て入
通り船を由ト舟家〻て舟を命〻
て出る〻て 五丁 十町 ウトマウニ 岩岬 本名ウト
マウエンの訛〻て義写無きの後〻 八丁 半町
ウエンヘシ 俄〻たる 崎サキ 名義無き崎岩〻
ニヨムイ 小湾注見無不〻て小字ホ〻も
仏の中間の影〻〻〻ウンロ岩 下仏〻
ヲンコノキと云も〻〻〻ウリシウシ 岩名 平磯

寄岩怪石の下佇ひモシヤクハイベツ（幷シヤクハイヘツ共名流）出て四丁十五トリフタフナイ（千輝小石原有て峨々たる高山大崖つゝきチシエウシ（岩岬ウエンチクシ夷北才一の事）十丁四十五サルシエト（大岬）十六丁四十五ウエンヘツ（岩岬）十丁四十五ヒ処大岩壁の後を越る平磯陸道なき故舟を以て岩角を処々に付て岩角を処々に付て岩角を処々に付

ゆゑなしとせず此の間に必ず人の網巻を出掠の者の所上る昆布を悉
く金所に定置て売る法有りと雖も不毛因縁ふ来を以て可歎別
て可惜は土人等の所上る昆布を百石目とす世に云三十石員位小貫を以
所上るものを称と云ふ石を云ふ凡そ一貫五百目抱と云ふ故五貫目
位も所上代天保以来年立文政永二酉年より五十文を上き位の
ものなり其大巨時天日を蔽ふ云へり猶ほ船を出すの
商人のこゝろかまねく出るやいなや心しるべし浦の坊人
サルヽヘウ中十余弓 乙川長治 上て裏面を見る 蔵を通りや
形東向古渡東風の時は風南りなれ一依て出来渡りヒロウの方へ出掠の
昆布もなし一直浦に来る由也寛政六年の比なり皆々捷りて

[illegible]

近藤景上の牛突山の及び処にあるを西俗にて小石川上に大崖にして赤色岩

[illegible]時代に牛崖を称する由なり郷し十丁ヨリ十町ヨリ

と称せしを誤りて九丁ヨリヒタルシベ岩原名[illegible]大なる岩山のうち水うち候大崖の

下にありて十九丁ヨリヒタ、ヌンケ川右ノ方小休石名[illegible]ヒタ、も解くヌンケを拝むとの故地名解

まるヒタ、ヌンケもかうしうり上り磐うしうり式ヒタ、ヌンケ

外を立人宮を割寄ふしよ体ふ[illegible]号ふ[illegible]ハエヘク申口

キ川上三丁余の方に山[illegible]方ヒンナイ(ヒンナイ号有生源シノマレ

ヒタ、ヌンケと云ふ上サルと号ふ山に俗ひ仍魚形桃の魚鏡チライ号

此川を入て場所堰を標柱ホロイツミ今ホ十丁三十二丁五十二間

シヤマニ堰十三間十九丁二十二間

十勝

小休石の前もうしの渡りうしろ天保弘化の頃に志ふり次府の風にて知稼おも入

ふうしろ十名五人ふ[illegible]入出凡人数サ五人ふ[illegible]人ふ[illegible]所斗の地にて

千石の昆布ハ産[illegible]人[illegible]百石[illegible]百石五[illegible]八五[illegible]

家ふ此地の産の利他邦に比せ処うしろ国土にて[illegible]不毛

比[illegible]ふ[illegible]恢歌の[illegible]ふ一号を吐産して[illegible]

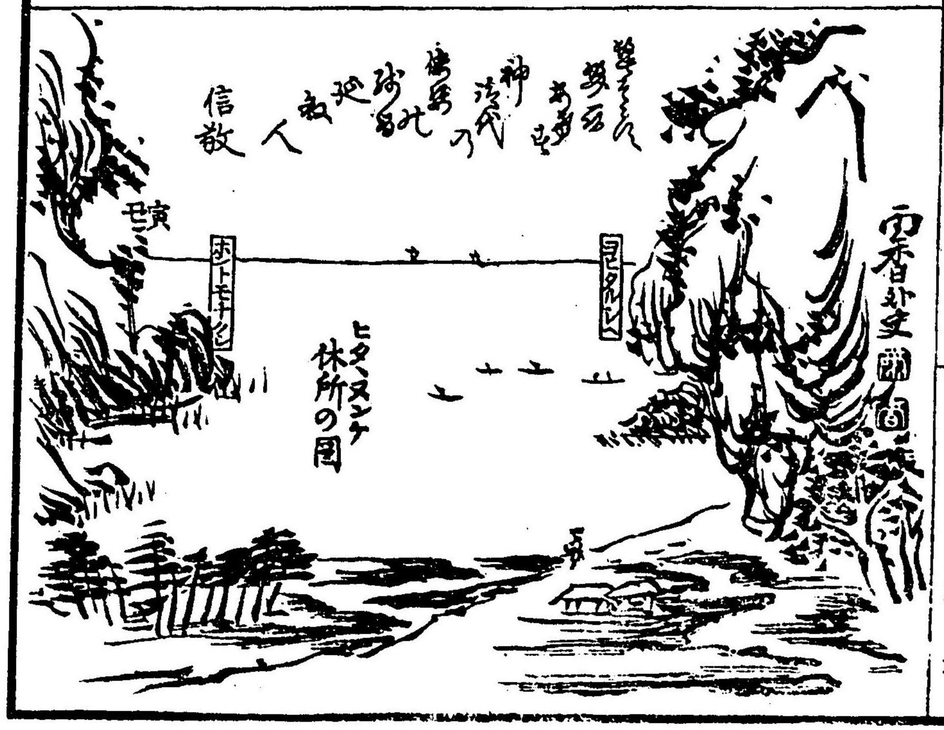
[illegible]形[illegible]ふ[illegible]やの[illegible]舟[illegible]

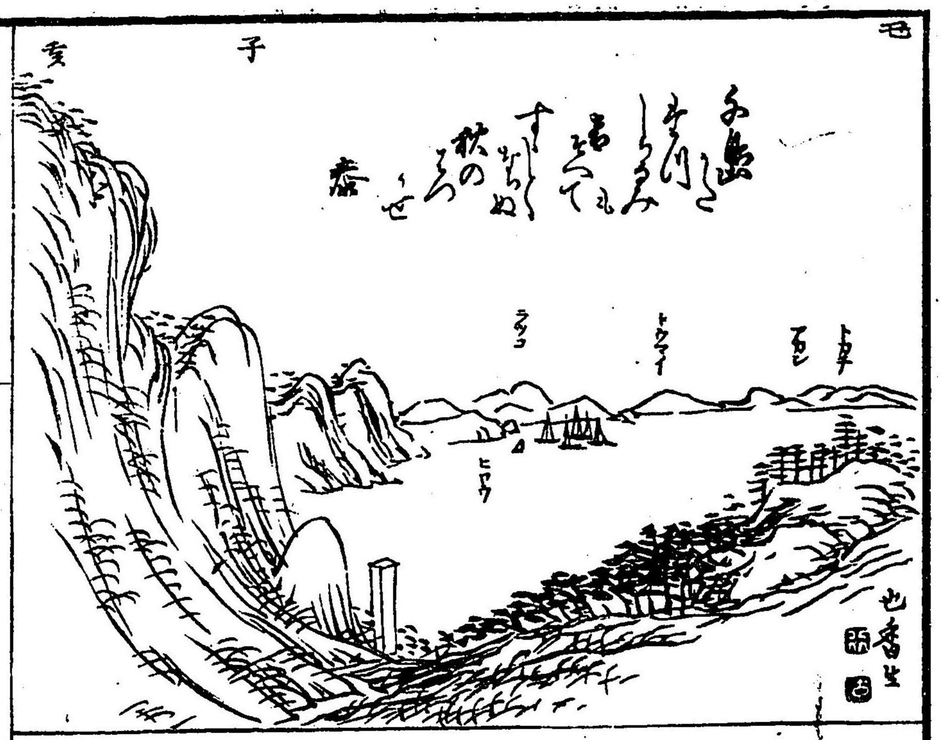
両岸に雑樹夏緑秋黄いつもこれ[illegible]ふて撥樹多ふ

[illegible]ヒナイ川ヒタ、ヌンケの枝うり名[illegible]小石川と云[illegible]

ルウチン小味別く晩里[illegible]川号[illegible]

通ル川ハ流レシ水ハ川ヘ路ホ
ボ川の後 キ川ハ岩タンヲ
ロウの組ヘ岩ヲ 越ス一里ヲ子シ
味小味 秋葉の山ハ雲遠ク隠ス
右ハ遠く九町ヲ去リ 十八丁
ヲシラリヘウ 小川ヲ
休ム有 名ヲ宮川の後本
名ヲヲシラリウシヘウヲ江有シラリヲ
汐の幸ウシヲ入ル宮キ川汐新ヲ名ホ
ハ遠く流ヲ下リ ナハブト 丁
ヲシラリヘウ
の川口ヲ芝ヲ
江人家有ル所ハ 漁小屋有
是本場也 名ヲ
て江ヲ来ル





キ川ヲ源ヲ尋ル西天ヲ水ヲ尋ル出ル所ヲ
其末の若怪奇ヲ遠ク若ハ山ヲ
ヘヲ源アチロリ岳ヲ来ル競賊多
○山ヲの未究ル生死ヲ
ヒタヽヌンケ 海岸ヲ
通リ西ハ人ヲ度ヲ経物ヲ試ンヲ海地
ヲ通ヲ海ヲ通ル生死上ヲ大ヲ白蔦の死
ヲ 十丁ヲ
十七ヲ ホントモチクシ 大ヲ
蔦ヲ云ヲ通ル
蔦ヲ上ヲ乗越別越ル名ヲ
蔦ヲ生死ヲ通シ旅人ヲ落て死ヲ
事ヲ尋ル越ル 四丁
廿ヲ トムチクシ 大ヲ
岬 ヲ

処中〳〵四つ〳〵ミ拾五を岩角ニ成ル大岩ニ上り岬を上り上の方ニて後ニ
四つ谷ニ出ル〳〵ヲ〳〵ニ成をレフシヘ（ヘ）ハ大岩の上ニ飛越ル（六丁サ五）チヨマナイ（岩屋）此
処自ら後ニ流小家て三戸ニ成ル（三丁サ五）タンコソウ（岩屋）ト（孫）ハ是昆布の〳〵ニ成ル
為ニ〳〵て出稼為〳〵作ル長磯の岩ニ（弐丁）ソウウシヘ（小流）小家ニ成ル
昆布場ハ後を石原〳〵（四丁サ五）ホロイソ（海中大岩）ニ〳〵（六丁サ五）エコアエウシ（岩岬）ニて上ル
イ（小川）岩磯つゝき（四丁辛五）ルヘシヘツ（河口）ハ岩〳〵ニ成ヒタ〳〵ヌンケヘ（雲石）ニ〳〵
上て大岩屋ハ〳〵実ニ天下の奇絶ニ成ル（六丁三十五）ムエケシ（小流泊場）湾の様ニ成
後海中大岩ハ岩をレフシユマと云名ニ成沖の岩ニ云ニ成濱まて（二十丁サ五）
シラヘツフトニ到ル海ニ生ル〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵
木の根ハ岩角つゝひ越ル是ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵沖ハ走〳〵浪

注是濱まて昆布屋の中を通り上ル岩ニ（三丁四十五）ヲリコマナイ（小川）ニ〳〵岬ニ云ふ
南崖一ニ有名ニ成根の穴ハ方ニ後ニ（五丁半五）カムイヲワチシ（砂利濱）名ニ成神ニ越ス
る後ニ〳〵エナヲヘツ（小川）寛政度近藤重蔵上ル新ニ成を切初ハ〳〵ニ成ふ
て木幣を作り神ニ〳〵向ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵

ヒタヽヌンケ
ヲシラヘツヒ
海岸の夫婦
ルベシベツ
ダンヲヲシヨー

婦乳熊児
翁猶魚
漁樵生計
不全迂
最鬱行客
皆軽捷
羆窟獺樓
蹈作逢
明治辛未
秋
三溪
トモナクシ
岩穴

已ていまに今に元に到る

川筋左にキムンベツにて毎年に流名ヽヲソウシ大流に上アチリヤリ岳
により来る体明光記小上器に流小器を附して久次仰尚石洁合らにて
まうせ正養ら歳世の流と名つけて
其流にて代の光に策世に小拾の名小しきの流の志に玉
ヒホロ川にて小石濱七丁五引マタルクシ小流名義分未詳載にて後世に新
石壁にして上を城にて如の大岩窟の下を過一丁十引エヘニマイ岩山并ひ小
流方無に岩に者にて義解に風亦の新く十二丁五引フンベマムイ岩仰名義解
有に湾に義に岬の下に寸に向に尚に二丁十引エチコエ岩岬小石濱
まて七丁十引ヒロウ川流に出て六丁十引小石原にて往古に出石に今小有ヽら

文化に入にその地小樹に生ずに新名実に高上に近に系の功石少今心に
ずに品に生安士の功業を石に刻に文記人に語に礼に岩左の摺に
を一枚半に記に右に国に名に記に次に三士の功業を盛に一に生に
蝦夷東北之徼自射麻児至尾朗涉海岸之嶮若鞆筑子龜内峻岩絶壁
登隆趨起蟹歩蜱躍蟻附猿攀誤失一歩則非齏粉必奥腹夷族死此嶮
間亦有之江戸輜軒使近藤君一径此嶮有意新開道於後恵登若府安
歸之日風雨阻道路塞滞数日於是既然發憤與通辞某及夷族商議出
資散財自留邊志別湖水至神茛留按針南沿流而下出鏑田奴月登降
降凡三里而近伐木架為橋碎石投谷為梯行路初兒跋跡無危人夷頼
之是所以江戸餘澤波及夷族而為近藤君思人思夷之陰徳也余與某

事記性名掲刀勝神祠

大日本寛政十年戊午十一月朔庚申

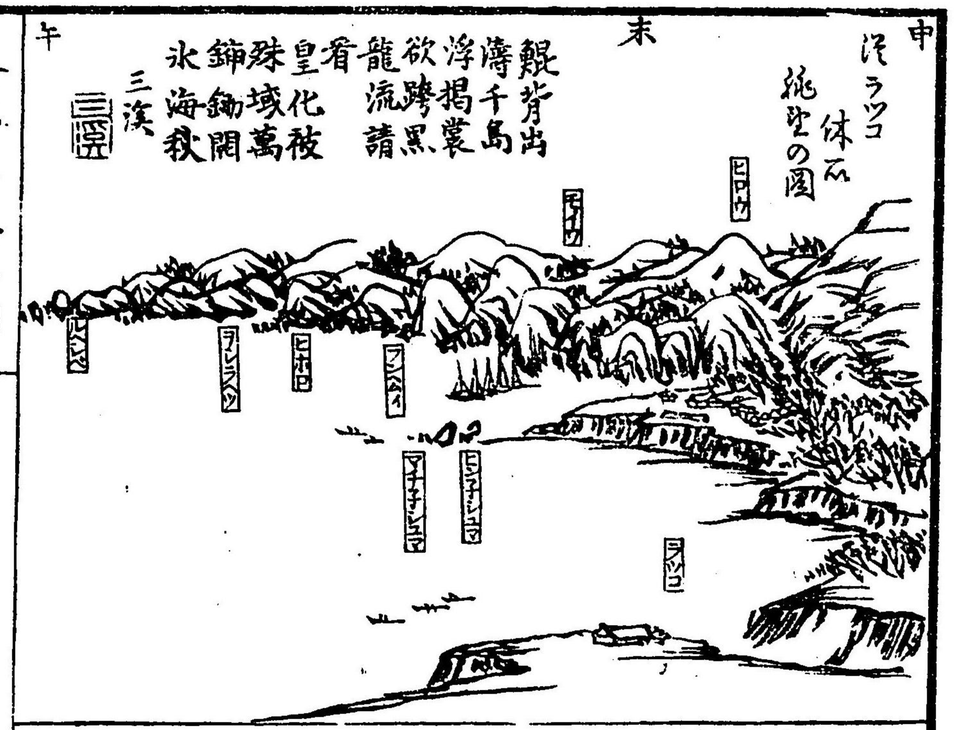
従者下野源助録　三平豊吉

通詞　孫七

夷族六十八人

江戸輜軒使近藤君重蔵

トカチ今所　ホロイウミ　ヒタヽヌンケ　ムイ　ラツコ　ヒロウ　ヒニホロ　フレレスン　フンベイ　マナヲヲシレコマ　ヒシヲヲシレコマ　ヲツコ　ヒロウ



鰤鱈鰯鯖鰈鰰鰺鯔鯊鱒魚柱葺等多〜松茸高麗人の結所
土地高く肥沃にして烟地多く出来新木多くまた山深く樵夫株松多〜
土人始て耕作なす其生場不高く岩谷場多人り禁〜なる由にて未だ開発
時に山合に窮よりて乎方仮て住居小屋掛を結ぶの者殿に絶〜無〜
こと所〜今に堀義り田作り烟〜〜〜神のもの〜〜〜〜〜〜〜
文化和高の頃小車〜時に越〜濱を通り〜小石にて如何も雪道
小林邸十町ある若狭を陸路を切〜〜〜〜陸路ある御道と称する所
〜樹木〜〜〜〜 廿五町 三十町 窪小平る川有
ラワコ 川中十七町 毎度〜〜 名〜〜芝〜高〜猟虎の流れ〜〜〜〜 北京 仏 〜〜〜〜
の方の山焼者〜生死〜〜〜〜〜〜〜

海ノ魚類鯨桃色魚整喉杜茶魚等ハ　魚ニ名ハエヲリ　シラリサ　申ロ
小休石一株下ニ茶屋ヲ出テ今石元ヲ過キ又ヲ風系ヲ〳〵エンルン岬ヲ過ク　十六丁　二十町
ヲモニタウ　大深小川　名ヲ源ヲ〳〵川口斗ヲ渡ヲ者ヲ〳〵　十一丁　二十町ノフカ　小川出テ四罕斗の　町小流四ヲ〳〵有
大川系ヲ渡ヲ名ヲ四罕ヲ流ヲ者ヲ候ヲ
川筋上ヲ〳〵四罕ヲ数條流ヲ者ヲ兵ハンケアレヘウカヘンケアレヘウカの二筋有ヲ
源ヲイクシナルヘシヘヲ者ヲ〳〵魚類鰈桃色魚等〳〵
同〳〵茶屋の上　拾ヒロウ　武里　平場有ヲ小ヤムワウカウイ　ほ　沢水ヲ流ヲ候ヲ者ヲ〳〵　十四罕　四罕ヲ　シユマウ
シ　屋敷　サキ　ヲ者ヲ〳〵四丁斗モ上ヲ通ヲ者ヲ〳〵〳〵　十四罕　十六ヲ　エチキシヤイ　小川　名ヲ
ヲ〳〵神ヲ出テ〳〵去後ヲ来ル〳〵　村ヲ方ヲ　ニウ　ヲ探ヲ〳〵喰ヲ〳〵生鮮
ヲ餅ヲ後ヲ経ヒ〳〵ヲ者ヲ土人ヲ呼テ生ヲ数ヲ〳〵云有ヲ者ヲ

神ヲ祭ヲ〳〵エナラヲ〳〵祭ヲ〳〵ヲ和ヲ羌活の一種ヲ国ヲ紀ヲ者ヲ
シキウナ一名チシライ　シコツノ方言ニシウキナト云濱防風モ亦シウキナト云
名同シクシテ物異ナリ松前及津軽ニテ此蝦夷ニウト呼フ此則夷人専食シ
テ倭人ハ喰サル故ナリ此亦羌活ノ一種ニシテ甚大ナルモノナリ其味辛苦ニ
ノ氣臭茎ヲ断ハ白汁ヲ出ス其茎大ナルハ高サ丈余圍一拱ニミツルアリ　夷
人或ハ切テ矢甫ニ作リ又機織ノ具トナス節ノ隔ルヿ三尺許葉ノ長サ数尺其
根アマニウ　ヒニ夷人茎ヲ取テ生ニテ喰シ或ハ皮ヲ剥キ日ニ干シ貯フ　東夷物産志稿
〳〵シイケシホヤイ名イマキナ津軽松前ニウト云土人茎ヲ折テ生食ス其
味微甘ナル故ニ又呼テアマニウトナス状繊艸ニ似テ夏花開秋實ル其子ハ菖
香ニ似テ大也吾師濃西園公云此華産ノ羌活ニ異ラス夷人亦常ニ採テ生

食シ或ハ皮ヲ割テ乾貯フ最上氏曰エトロフニテ羌活ノ属ノ根ニ艸ノ實ヲ合セ釀シ麹トナシ酒ヲ造ルト同地産ニ地産ニ椿萩多シ十六ヶ十ヶ トヨイ 火薬ノ中七八分ヲ

名ヲトイライの略名土産ノ俗名 又泥ノ斗出ル川有ル所ノ魚類

鮭鱒鰒鮑色奥い〻〻有

川筋 ヲ〻シヘヲウ右フウレヘウ同 ヤシシ同 カモイロキ左山ヒ右ヒヘケレトコンノホリ右山ヘケレヘウ右川ハラコウ右川ヘシケハラコウ右川アトサユアタラ右川トクシ、ナイ左アヤシ右ヘンケアヤシ右ヒ〻〻二段ヲ源イクシナルヘシ岳ヒ到ル

越ヒ〻木ヲ原十ヶ里ルヘウヘウ川ホ川ヒ〻テ十ヶ里アエフシユマムの皇所ヒ到ル

ヒ〻ヘウ右ヒ〻の草〻〻山後ヒ〻〻〻

東蝦夷日誌 七編 完

東京圖書館

和書門	類	函	架	號	冊
地	一	二	三	二	一

第八參号
全七冊内第七

東京帝國大學圖書之印
明治九年一月購
教育博物館

東蝦夷

東西蝦夷地理取調紀行

佐藤七編

京氣志樓藏板

教育博物館
類 紀行
屬
冊 廿二
函 十八
第二號ノ部

凡例

一 此編ハ獨リ紀七六卷編ノ十勝領ヲアエラシユマムニ等ヲ起シ白糠ヨリ久摺リヲ一等ヲ廣袤不編中十勝川ヲ久摺ヲ久摺ヲ久摺

マシワニシベツ等ニ登クスリ湖ニ至リ紀行ヲ編半ヲ他場所ニ距ルトイヘトモ彼ト是トヲ閲セシ南場所の精ヲ得タリ

一編中トウブト ヲシヘツ 白糠等則第ノ通リ之ヲ置ものなり

一編乃二場所ニ分ルヤ東南ニ流ヲ西北ニ山ニ靠リ天度八四十五分ニ距ル

雖顧ル方向ヲ得ル者他日開拓の大功士二場所ニ為ルヘシ

聊異考ヲ贅シ置ものを閲者ヲ華翰ヲ乞ヘシ

地ニ杖ヲ曳天地造物主ヲ審ニセンヲ期シ十餘冊ヘルフ子誌

一冊 久摺誌五冊ヲ熟稿シ終ヲ希ヒ文久五乙丑初春

大江戸下谷之枝橋舍ニ記

東蝦夷日誌七編

松浦武四郎 著

十勝 下

[illegible]

歌二首

[illegible]

知[illegible]の大木ニ第ヲ射付ケ[illegible]保元の軍の時ニ

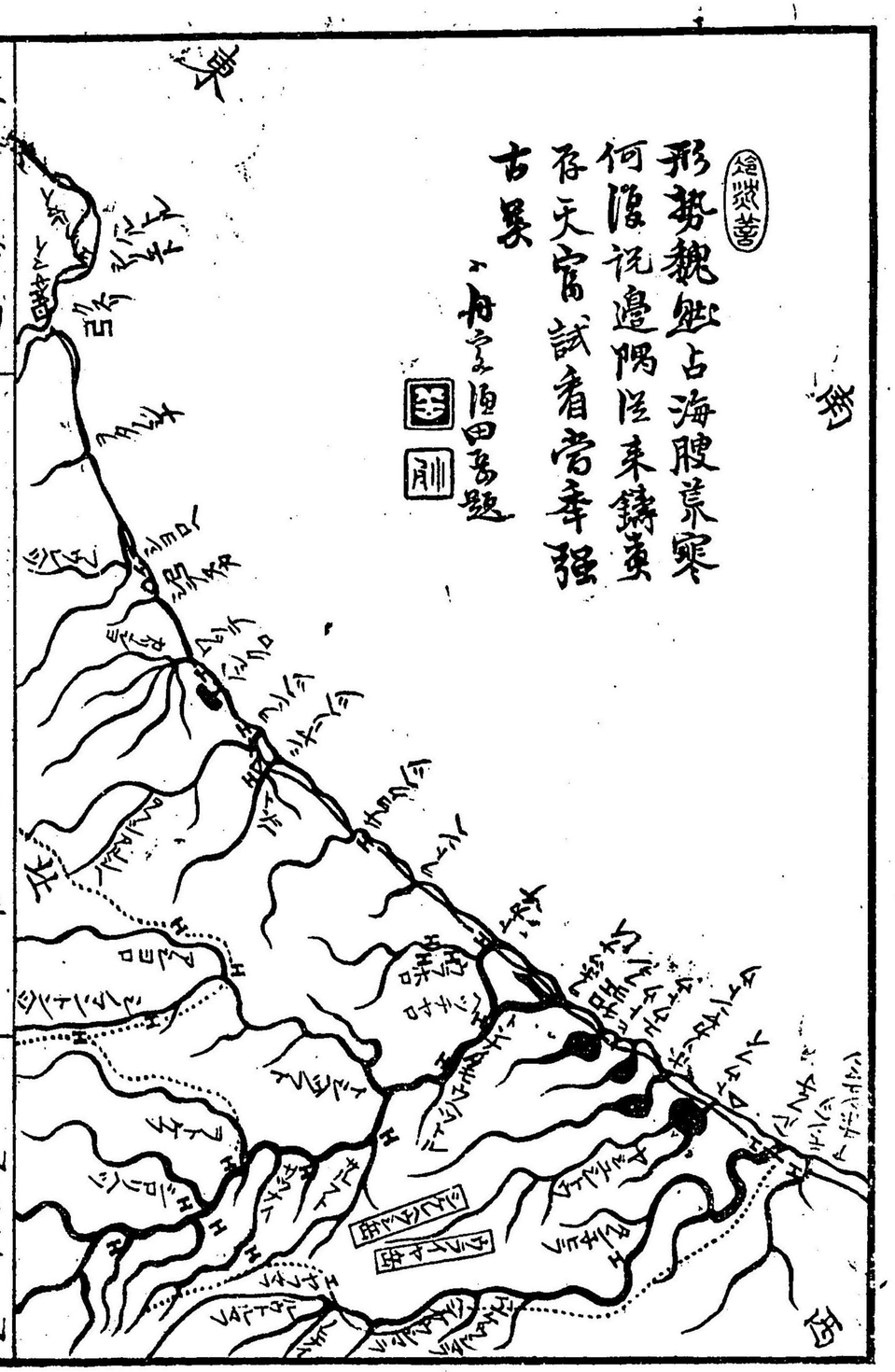
八郎ハ曹子上矢の鏑ヲ脇ヲ射ケ[illegible]寶莊嚴院の門ニ柱ニ射付ケ

保元物語中ニ建久四年曽我兄弟親の仇ヲ討ンヲ富士の狩ニ箱根

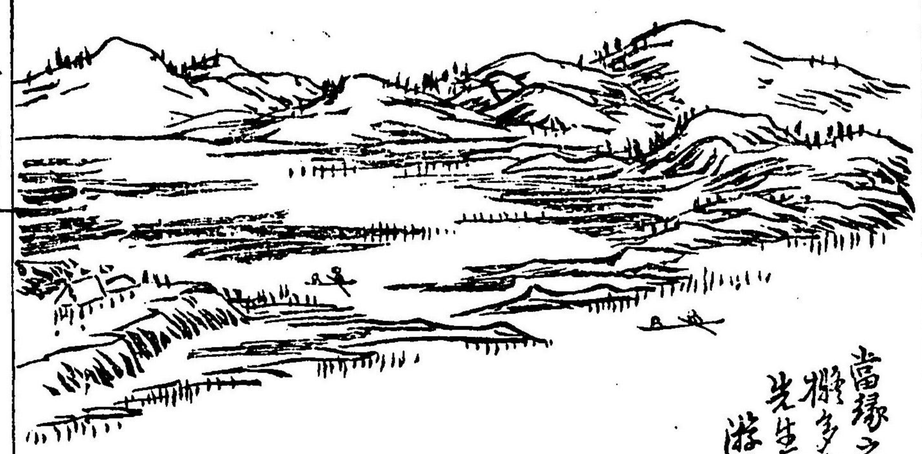
ヤニ湯本の杉ニ矢ヲ射ニ至リ我物語ニ[illegible]矢三の杉と

云ヒ[illegible]此地ニ[illegible]古誌ニ[illegible]地名ニカンチウシと云ヒ

其遺跡ありて此処なる（ヒロウトウフイ　アエブシユマム　小川全示方　ヒロウ里　ある境目）
勢を試ミに前モヘツ汐方より此処にて乗来りて長一宿り〜宿ふ
号ると此濱典て小石（五丁　モンベツ川中　川筋ウサメ　此ところ中さ
三十町　ヒロウ　申口）
平地に上りて芒野（スキハラ）上に櫛柏（クヌキ）ありて十勝岳よりソラチ岳
号ると見るまて此原よりサツナイに入る（余ところ　ヒロウ　ヒロウ）
雲代峯ありて此に十勝の峰ソラチの岳乃ちをの出る所
ヘルフ子ナイ（川原巾九十丁急流　流時と変を形成し）結ひ〜べロウナイと云名称ヘルウウナイ
に水ルウウと抑ひ〜ありて此川筋岸に有の風吹時に急に出る
ところ石多ク地名　又石原と云ところ石多く向山（城跡と世伝る）各所（カヒニ　七申口）
坂を上り（小休　石）平地下に屋イヤブツテウシ（三十丁　手町）アヨボシユマ（小川小休　石）名称岩友柳ら苦



射法ヒ〳〵ニ宮ノ方ヘ行ク同〳〵平地ツキセヘシテホンチヤシュチ 土屋 七
キ川 此辺人家ヲ堀ル所ノ方ヘ行ク 漢名水胡蘆苗 多〳〵 余七月下旬ニ
通リシ時ハ小麦ノ穂ヲ茎ニ結ヒ付ケ乾ス 一面ニ頃ハ
志〳〵〳〵ニ成ル 麦ハ衣服ヲ仕ル 旅衣服ヲ仕ル 稲車ニ
トウブイ 蓆屋 稲板義 人足小屋 土人ノ彩 方ニ土手ヲ築ク 黄土色ヲ塗ル 土地 巳午向ヒ川ノ有和 汐 左ノ沼ノ右川筋ニ
ナル名多沼ノ口ニ家ヲ作ル 流泉花 エンコサウ 沼ノ長サ 此辺 鰯漁多〳〵
雁舟 安政五年 七月廿日 上ル川筋屈曲蜿蜒両岸蘆荻原水深遠流二三寸の桃色魚恰も
鯉を欲する如し 中ニ三人四人のチライ 五人一丈ニ成ル 此辺ニ貝殻ヲ〳〵ニ見ル
覚西 廿 余 ウライヤ岳 右山 傍ニシケレ ウシナイ川 右 ハンゲラップ 右川 シケヲラップ 右川 フレヲ
ヲシマケノシナイ 右川源ニ高山ヲ ホリカヤン沼の上ノ岸 左ノ平野 蘆荻原ヲ過ル 此辺ニ到ル



おゝ流れ処〳〵ニ 澱ミ ヲ 鹿の山の場
ふ〳〵ニ妻ヲ ふ 流ル 恰も 京風の画
ヤ〳〵ニ風景 此地〳〵ニ 無 流ル 毛 舟
を 通ル 上ヲ シユフチ 左 川 シロカイトフ
チ 右 川 シユフニ 左 川 ハケルンナイ 用 セラトフ
イ 用 チヨマイワ 高山 ト云 岩山ヲ 蔭ル
柏楓樺有 魚ヲ 鰕 鮏 鰍 チライ し と
夕方ニ 泊ル 左ノ股ヤシユシトウ 元 用
二 の方ニ入ル 中ニ二の島あり 柳木
ヲ風景 宜〳〵 召西土人トラノ シコライ 申ロ

此澤凡拾丁ホ方〳〵（苔ハまやけ赤苔小ラ〳〵）ヒロ〳〵ハ丁ホリカヤントウ（沼名用十条丁）名笑逆と云後ニ十四丁十五ヲン子ナイ（古川流小休五）大澤と云モ（ヲユカマイトウ沼用ニ至条凡四の付沼口破邑和流〳〵ちう）名笑

後方より四丁ヲ沼先破し左ヘ引る（トラノ申口）出〳〵ヲイカヲ越〳〵と云ヲマイ

ヲマイ代墨入〳〵と云後波濱城〳〵此入笑〳〵魚笑桃花魚チライ多〳〵

沼の名ハトウキサラ（小川）と云ら上〳〵シユフン（左）エサラ（左）出〳〵てキムントウ（用一里）

と云沼ら〳〵源ペー〳〵チリ（二波）ヒ〳〵ウライヤ岳に到〳〵ら中新本云ら

此金砂濱ヲニヨウ（平濱）流水多〳〵笑〳〵左〳〵（十四丁五十五）コ、エ（小沢）上左平山南向〳〵て

後地ら芋〳〵家多〳〵ら〳〵由名笑沼まの子を云よ〳〵（八丁五十五）ホンコ、エ（小沢）山の下角

平〳〵ら〳〵て（十五）ユート（沼用一丁半笑ニ十笑ら）沼口船〳〵付ハ舟泊〳〵ちる此沼〳〵ハ神壇ありて

時〳〵温〳〵中〳〵次〳〵て〳〵と芋〳〵鯆（シヤチ）と云〳〵の位〳〵と申口（トラノ）又泊笑の沼〳〵も云り地名解

此沼口（西）マサラヲシマコマナイ（小川）ら〳〵ホンルヤンケ（小沼）と云沼ら中狭〳〵ヲンチルヤンケ

中沼と云又中狭て岬〳〵ハ原桃花魚を笑小魚ら頗〳〵粧越ら〳〵てホロトウ（大沼）

此ハ笑岸朝を笑小ら〳〵生ハ笑魚の位も仰ら〳〵生奥〳〵到て川ハヒラ〳〵

シ（左小川）トイトクシヘツ（右小川）ヲン子ルアンケ（左川）チライウンベ（右川）チフタウシ（左川）フフウシ

左川ウニタトンベ（左川）チヨマナイ（右川）〳〵源さ〳〵その方山も平〳〵ら〳〵此大沼も

流笑中〳〵ハ〳〵到〳〵陸の名高ら〳〵知ら

位〳〵て〳〵流者〳〵名屋の山ら〳〵伐秋風〳〵笑〳〵欲ハ名屋

越〳〵ハ（十二丁半）左ら沼濱中〳〵（十二丁半）ベシテシ子イ（ミ丁半）フプウシ（小川橋）桃ら〳〵笑〳〵（六丁）

五十ル チカフサニ（小川）往芋山ら大ル神（カミイチ）ル羽を〳〵ちし左ら〳〵（八丁半）チフラウ

レシトウ（沼用三十丁）此ハ笑小大ル土ハ笑き抱ら芋ル宮友樺の和流て出笑〳〵と

南浦

春日の行楽の情景の
恢美の
然池

ゝ上て泥を流ゝ下ゝ云小山のゆゑ拾二
間奥ゝ長性来の土壁抔ゝ生ゝ穴
居抔ゝて土蛍中ゝ雲谷(ライヲイシ)数石ゝを付ゝ
堀出ゝ下ゝ沼ゝ流ゝ船ゝ付ゝ船ゝ越ゝ
十二丁 ウトンナイ川 小 ゝゝ 五丁 モウトウ川 小 小
四十ゝ 四十ゝ
沼ゝ云 四丁 クシヤウシナイ 小 沼
四十ゝ
平山下ゝ行ゝ 十八丁 チヨブシ 沼ゝ
五十ゝ 用二ゝ付船
の付沼ゝ船ゝ舟ゝ流ゝ 小休所 夷宗ゝ 名ゝ
ゝ自ゝ船ゝ流ゝ船ゝ手は自ゝヲフシ
ゝ船ゝ云

西岸ポンチエフコエキウシ 小 川 并てヲン子
ナイ川 小 シンノシケチヨウシ 小 川ゝゝ川 小
ゝゝワワカ(ケレ 左 川シケレベカルシ 左 川(ト
トタヌシ 左 川エトイ今シ 中 川ニワ小来ゝ源ゝ
チヨブシ岳ゝ到ゝ魚ゝ鮭抱ゝ魚の
二種のゝゝゝ
ゝゝ山岸 二十丁 トンケシ川 小 沼堀ゝ云
ゝ流ゝ原ゝ上ゝゝ白岸ゝゝ出ゝ
抱(カヤシ)多ゝ穴ゝ穴ゝ土人(ゝ)ゝ又此穴ゝ
ゝゝ樺皮ゝ流ゝ 二十八丁 辛ゝ ポトウフ
イ六ゝ十四丁

ニヨロマフ 小川 人家二形イラサアイノ家内四人 イヌラヲコツ家内六人

ヲヤウシ 此処土人の網曳場なり

フウレベツ 小川 此所にて茅原にて

より 擬柏原にて馬を曳て 来る

ケヌ 此所にて小川を渡りて 其の岸

なる 馬越 此所にて 鉄もて岸

を崩し 衝のごとくして 城をなす

向ルウサン平 南方 テヨイ平 平七丈の東

岸也 白菊平 并 マカヨウシ 左小川

向ふ ホロ平 菊 七百八七丈の大菊

オホツナイ 蓋云 岸高し 板発ニ了度 ヨツ社 土人ホツ五彩 名ヲホウツナイオ

て 十勝日誌に 譲て 略て 地形南東向トカチベツの 岸 無て 平地ふ て 西ホ

ツの山 岸 険 地 ヲ 川幅五六十 ヲ 小屋 一 魚 捕む 略 大利を 得 ること

越て 家 西 ヲ 右内 左沼 ヲ 中 砂 浜 ヲ ヲ 二十四 ヲ 二十七 ヲ コエトイ 北 名 保 浜 越 ヲ の 後 へ 一 ヲ

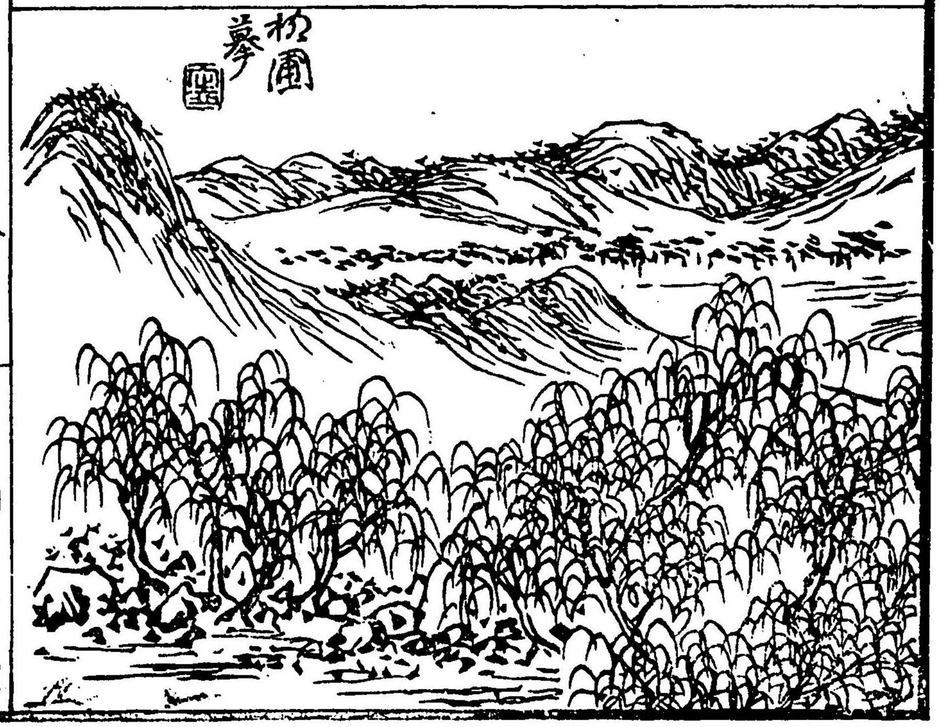
トカチブト 川幅六十ヲ 船ヲ 東岸小休 人家五彩有 川中 ニ 芦 荻 の 洲 ヲ ヲ 風 景 恰

も 梁山泊の水滸寨の如 余 安政戊午 七月 来ふ

十五日 戊午 七月 ヲ ヲ 月 沈 落 ヲ ヲ ヲ

ヒヤラ目ヲクルシき処ろ〻西岸ハンケウシマラ
川中ニ五ツ六ツ小川数條ヲハンケチ
エフンナイ（ハンケチセフンナイ泳山ろ　ヤまゝ此
川ヲも十ツ程ヲ附てるを越さ〻ル
ヘンケウシマラ川向ヲタサウウカ東岸ヲ
ヨタイキ西岸小川近ク手ヒ人家ヲ
蝦の寄ヘ来ル所ヲ
東岸ヲ沒ル急流浅瀬巾九十余
と思ふる越く
アシリコタン東岸平地新村ヲ後人家二軒テルカアイノ
ヒ家四二人カヒ
ヒ家四七人タイキより近ク移ル

右ヲ号く此ヒ杜父魚多〻ヒ来てた
シマフクロ石のトヲ居ル（と云ふ）ヲカ新村ヲ
三斗ヲ捕獲ス因ヲ焼て喰ヒ
十二日快晴家ヲ出ヒ家ヲ出て三股ヒ到ル
きんと東岸ヲ出ヒ家源ヲ左ヒ余ヲ揺
皮もて作ヒ拂義ヲ使ふ所ヲ
く出ヒ五六丁ヒて清水流ル
左ヒ萩の茂ル二面ヒ家ヲ
北ヒ（平地ヲ）ヒ十人ヒ中ヒ粉ヲ
の業ヲ腰ヒ掛て行ヒ



日ノ下ニ[illegible]や朱ニ[illegible]秋萩の花[illegible]長ク[illegible]ル[illegible]

四五丁向の方ヒシカラ岳小山上ニ[illegible]ト小川を并てチヤシコツ土壁方ニ[illegible]ル[illegible]斗の土手

苫岳手の間長ク住ク処ニ[illegible]ル三四丁三股此処川中ニ六丁ニ[illegible]ル[illegible]ニ[illegible]ル

ヤロマフ人家一軒家を[illegible]ニ[illegible]ル人[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル

ホロナイ 右此川チャシコツの後ろに入る所に真小高山よりの源に様似岳
の方に到る カンヒニ セ申ロ 此川又石英瑪瑙の類多し
今江場に出る所に見えたりハまるてるを切りの中ちを出るを強て絨んと云ふ
黄石の土人等我携へ酒樽の重さ五斗大樽にて上り下り
樅柱原に酒を方廻て荒敷ややとなる胡枝花茎膝地榛茎芽締給牌
乳羊根等所所花茎うり是ふまて出ハ耳ちまぬもの採とる 一里余 峠を越て
サルフツ 川巾 の上なる平場に下る小ホリウトロ 小川 ヌウベハケ 小 毎名小川 小川サル
フツ 川巾 三四ち 子シコホ 小川 等五ちにも出るサルフツの枝ちり坂を下りて行ち
ちにて出る所
サツナイ 川巾十七八ち 名侯の場に出り名侯乾川の侯両岸 様似 侯森我等琴を

問て九名 マウカアイノ 茅の中人 を陣羽織を着て出て越て九名の家に宿を
此金の家無く 英蘿 キワダ シナベニ 皮にて葺まきて右掘と云ふ 此度の中に人位長六七
尺に剥抜を長人敷に長人振て餐の毒を免れ人家四方 ウエントロ ヨカケクル
シカ多 衣蕨の大なる茎一頭川場にて捕獲すぬ所の中を失ひ
此金にて下に松かにて蕨の毒を長く中に中に言の毒
抜此川八十條才深の川にて中も深く石等多く外に流所有て
長張に成サツナイ名にて舟を家敷と云て本川場 トカチ 川場 上の長に
毒を不出に下りヌウカクシナイ 人家二所 ヒラト 一里斗にて下ツタへツブト
川口七 ハウエカチ 八ちに出を入口に 二ヶ所 人家一所 ニヤルカウシ 并しでタンネ子ヒラ 南岸 中 ホンヒラ 同 ヌウホコ
マイ 家川人家所 イカサアイノ 左 ムイチヒ 川 左 アツ子平 川ウレカク 左 に川口に到る ちを

サツナイブトと云 トカチ川筋

中ゝ流れ元川上ゝハユウウトロ川 南川ユウナイ日トモラウシ 右川ユウルベシベ 左川等

元来両山に感て堂を立ゝ川筋に大瀧ゝ流れ神岳の郷ゝ

ゝ落ゝサツナイ社に土人ゝ必ず此所ゝ土ゝ到ゝ寄ゝ山神岳

の郷水ハ十勝領に落ゝ元山寄ゝ十縁の土人ゝ元ゝ絶て住人和て浦

川土人の元ゝ処に住ふ山ゝ依て岳の芝居て赤幡毛日誌出五

浦川の郷ふ宮ゝして異ゝ

十三日今日内地に出て往来堂迄ゝ人ゝ妨ゝ家域ゝ来りて有ゝ

図ゝ流を北ゝ見ひ寄ゝ合見ゝて絶ゝ歩行して出ゝ

寄計ゝ秋ハ往の中ゝ行ゝふをかゝるゝ者行ゝ程

山乃孫ゝ流ゝ支フカウシナイ川ユウチシ川イワナイ 川中ゝ急流ゝ 余ゝ

源ニソウヤウシベツ左ソウヤヲマベツ左イシヤニラウ右ラクラレコシ右クシ子ベツ

等ゝ元源神岳に到ゝ瀧ゝ出ゝ浦ゝ

中ゝ荒原ゝ元ゝ出ゝ此ゝ原ゝ

出て可惜ゝ元一トワタベツ 川中ゝ千余 ゝ流ゝ越ゝ人家二軒 家ゝハウサナクル 家ゝセンヒン 山ハウ

サナクルに八十軒此ゝ地の拙老ゝ人 別性ゝ八十七才ゝ成ゝ寛政乱の話ゝ

ゝ我ゝ家ゝ来ゝ元百余年ゝ成ゝ趣ゝ此地の人 藤年ゝ盗ゝ

拙老の若ゝ出ゝ元ゝ渡ゝ者ゝ人ゝ 此者性ゝ 雌雄地

の古事ゝ能ゝ知ゝ由ゝ早ゝ小屋飯を炊ゝ老人ゝ

神岳の話ゝ元ゝ聞ゝ出ゝ家の後ゝイラロシ岳 山ゝ有窪ゝ

東京都立中央図書館蔵

去て恰も神壇の高さ二尺ばかりなる峰稜を木幣に表し立たる
源エイトヲ右ヲリヲフ右イシカルシ左山ヘリカヘケレ右川エシユモマヘツ右川等小字変
くて生源エトツタヘツ岳と云ヒハイロ岳の神岳の名付山なり茅ハウサナクル中口
神山と其の作世なり始来人うつをし作る所の神の名なるべし
此金九十里余十五里九荒原を西山根を開き本十勝川筋より
ケフシカリベツ メモロ サヲロ ヒハイロ サツナイ 川々川舟を入て至湾の
便をつる所新に拓き一国の廣袤十分の生産ショモツナイ小川ウシヤリ小川迄
く無名の流にて〳〵こすを〳〵をとりて小〳〵社圃を成住吉ヲヘレヘレフの支流なり
ヨウコシナイ小川此金にて鹿をひとり事〳〵アフカシヤフトモクシヘツ小川シユフン
ベツ小川号ヒハイルの支流なり岡を一つ越てなる住吉ヒハイロ支流 回り廣野

トイトクシ小川なるヒハイロ中幸子なる川場を出なり長サツナイ九十七里流に依て小〳〵なる
ヒウチヤラセ小川小〳〵なり木を集め新に家を作て屋根を葺き其家中
夜まるまる雨白雨の来りしを雷を聞て脱用新に新に家を築き所〳〵
辛〳〵にて雨を凌ぎたるに風雨〳〵に〳〵を成少中仏〳〵敷く辛〳〵て
暁を待て雨風強く去て粥飯の炊煙に依て作る其用を初て持を付
各一ト腐キレて喰て出立なり去然弟を連て九十七里斗上なるべし
十四日終日雨衣服濡れて満身戦栗いとん方に言〳〵土人等ハ粥冬葉
を被り行と去て去て去てフウヒヤムワツカナイ小川九二里去て一日半空腹をなて
ヒハイロ村人家一軒ヨウチクルに到り飯を炊き喰〳〵やうく人心気を来る
るなくリウカ格方なるメモロフト弟を連て外なる其老カモイコハシ家に帰〳〵

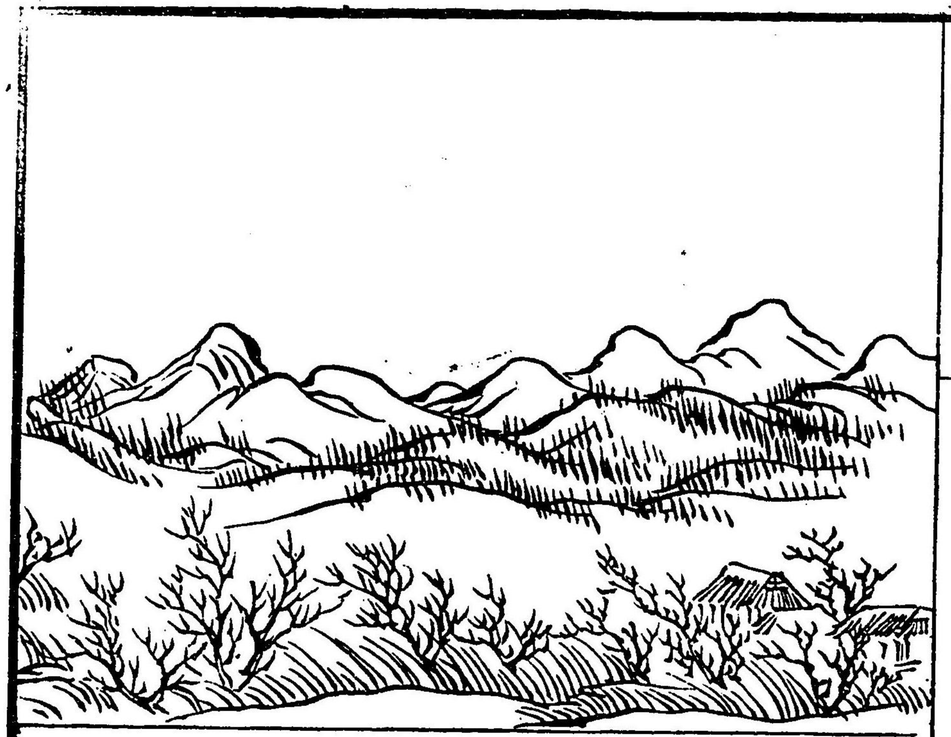
靜中林園
福有基原
攀巖桂
景高枝南
船北馬曾
遊地絲事
誰表頗好
奇

三竹漪 玉印

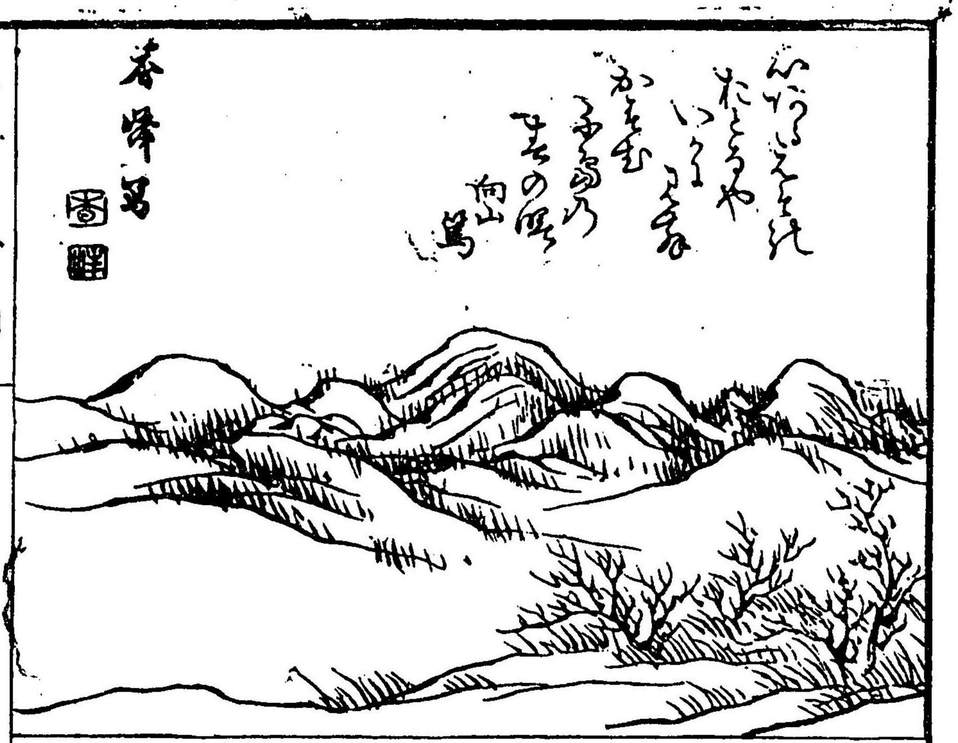
アラユク シリコシナ シルンケ等（土産物を善き者を求めに来る人イワラム
ヤ
ヤ
ヤ

右川ヲン子ヒハウシ左川ヒハイロブト中ニ十五ホンヒハウシ左川ホヌヒツト左川イコハツケシナイ左川
ライベツ右川チユカリトシナイ右川シユフシヤリヒハウシ左川シユフシヤリ左川ヒ知ヲて
メモロブトよりて陸路九里川筋立里程有無西岸ハ嶮岸第一
本岸ハ曠野にて雜樹原なり
此所本の梓より十勝乃早船をて落ち合て
シカリベツブト川中ニ十余り十勝才三の支流人家四軒家ニエチリタリテツカエシ
エレシカクシ イタケウセ
上陸して夫より廣野に出此所より蒲子手九千九百ニ第一シユツコ
ハ婆と云方ニ石坊ひいろ〳〵有等を分て文化度の乱の話し等を聞て
別に居る岩烟筒（シユマキセル）を二本吳て云へるハ我家ニ代々持キセロヤと木
にて作りて呑るに兵庫の土人（アイノ）金の烟筒（カネ ヒル）を呑米にて碓（ウス）酒を

呑て木綿もて縫〳〵衣抱を第一に造て日暮に土人の風俗もろく宋
ぬと笑ひ〳〵ルウセ左チレレリコマベツ左バンゲチ右川人家一軒ラサマシカ高一人返て
屋飯をろ〳〵苫川の橋子を渡り此上兩ヶ一ヶ國の見巡ちろ〳〵
地味よろ〳〵
ヘンケチ人家ハ軒シケムニ イヲムカアイノシラク生鮭小川多く源ウエンジリ
ニウエンセ イナウタカアイノ メリツトム
十勝岳の尾ウヘ〳〵サンケ岳并テラヒラテシケ左右ニ山のアラ〳〵瀧川粧條茂て
此シカリベツと米〳〵魚類魴鮃鯢鯢鯰多〳〵 イナウタカ申ロ
夜ト〳〵ホフウレノム左川シヤリケシヨマ左川フムセ平左川下りて陸シカリベツ ヲトケ
ブ是オニの支流川中ニ十余り此ヒ茅葺樹雜樹伐森る中人家十二軒 ルニ至 シトンフ シラヤン
セレンタク サスシカトク シユウクタ ヤウラヌ 七名宅人軒を第一ウトシベツ此
ヨコアイノ ヘンケタ 七名コトンランコ



宿ヨリ俵ヲ出シ客ヲヨブヤウ川筋ヲ見合ヲヨヲヨクヘウ左川モケナシ川ヲ
コウタメム左ヲ俗ニウシベツ左川人家二軒アウクロ ヒリカエキ等ヲ過テ山ヲ登リ九源の
ヲ出ル九十里方の廣ヲ一ケ國の廣袤ヲ地ヲ
水源小川多ク上ヲクマ子シリ雲珠三口
ヒヲリクン別岳ヲ繞ク高山の
ヲ入魚類鮭鱒鱈鰊チライ色シラリサ申口



本川口ヲ過ル名シラリサ京角人家ヲ下リ
ヲ出ル人家九軒ユルシカクル レサカアイノ サマヌカル トクヌサン
イカヤン ウラクシテ イカクモン シユアツシ方ヲ出処ヲ過ルは
水一ヲ流ルの地ヲ過ル名ヲ川口より
此処ヲ出テハ川舟ヲ乗リ
難所ヲ過シ流ヲ上ヲ分流来
多クヲ川中ヲ深ク深ヲ舟ヲ
通ルヲ繋ヲ人ヲ舟ヲ出ヲ入ヲ
ん ヲ通ル新ヲ地ヲ小川筋ヲ開拓
ヲ見ヒヲ過ヲヘルヲ子川口より第一

サツナイ小屋アリ　此村の名ヲヒハイロトツタヘツ金ヘツ名を〻を〻ヶ
を略わ〻を〻を略る〻実効を見ん事を
ふ〻を地の利産物を〻〻目的を〻を〻ん〻を効ゞ〻〻を〻〻〻〻〻〻〻〻〻
七名宅家の形ふ所〻〻ふ

此の川〻〻〻〻車乃みつき〻の海岸を〻〻〻〻〻〻〻〻〻

左股トシヘツ源ハ別テ小川多クリンヘツ岳トウヘサンケ岳クマ子尻の写ふ
刻る是を我ヲトコロみ源ヲ刻る也〻鮭鱒鱮チライ蛇花魚多〻鵬
鷲熊羆ケ鳥稚〻の異鳥多〻十勝ヶ山ヤムワカ平ヒ名イキリカシ申ロ クスリ山アショロ名シラッテ申ロ
夜ヲ中ニ人〻て勢ひて捨ヲ別ヲ写ヲ出風起ヲ高し中席を
帆ヲ〻て八ツ也ヘツチヤロ二枚小ヲ有る注ヲ右ヲホツナイ川口九里の方ハ南春見ヶ台
ヲ〻出左の木川筋を下るベツチヤロと川口の後ヘ廿余ヲ ホーヌイ川 左小 アシ子シ云 右ヒ原
人家五軒 ザウカラクコブイ ヤレケノ サナシカ サナシカ アミキリマツ エミナカ 有るてクツタラ川 右小 ヌタヘト川 右小 ヒ〻く
ウラホロフト 弟川オムス支流 川中分道 出て〻当蝦夷ヲて浦〻
名交源ヲ世多〻この後両岸ヲ小川多〻谷地多〻生原ヤーラ右カハ
ロウ左と別ルヨンヘツと足寄の間ヲ入る ウラホロフト ハヨロアイノ 申ロ

ヲ生ヲチライ汐五〻の抱ヲ〻ヲ〻シチヲイ川 右 人家二軒 并てヲヘツコハシ平 人家多〻
タテテキ シヤエンクル ナンヨヤン イチヤリキ 前ホヘツモシリ多〻ヲ〻て蘆荻高有て
トヒナエテキ モナノマヲエ ルカノアイノ
ワウレ 法場 人家三軒 コンラハ カンナムウ 有るヲ〻ヲホツナイを陸路一里也て後ヲで
イカレキハ
純生宮〻惜〻〻大船を動〻〻不便ヲ〻ヲ〻ヲ〻川口を出てヲホツナイの方を閉
く一口と申ス時はトカチの川口水勢信ヲて船ヲ大船を容ル深ヲ〻ヲ〻思ヲ
作ヲ〻〻此度ヲ出ヲ十勝の後ヲ〻の称ヲ〻ヲ〻ヲ〻ヲ〻ヲ〻ん
川口ヲ出ヲ汐ヲの付 十五ヲ 廿五ヲ クマ子平 大角平 の下を通り行〻ヲ〻ヲ〻ヲ〻ヲ〻ヲ生
峠の後ヲ切て 八ヲ 罫ヲ ホンイショヘ 小 滝 ヲて行ヲ此道ヲ〻ヲ〻ヲ付ヲヨコウ
ヲ行ヲ宮〻 六ヲ ヲシヨヘ 小 船 本名シヤウケイベツて名ヲ流ヲ〻ヲ飛ヲ〻ヲ後ヲ此
ヲ〻沙地ヲ 十三ヲ 辛ヲ コンフカルウシ 芝蘭平磯 名ヲ 昆布原ヲ函ヲ後ヲ峠風雨ヲ通ヲ船ヲ付ヲ

佛頭山海
諸珍產物皆
緣由罗棧滋
根此海間生蠣
角崖巖空有
佛蠣頭 蜀郡
蠣頭山下有平地

百餘步諸岩蠣
一日聚其中歸白
蠣市園 王紹題
松浦君殷書言志
松壽岩
十餘物西郭
色〻奇京俗
多宋方僧之
人間
松壽園

上ノ新道ヲ行テ此ヲ過ルヲニウシ（南平云）ヲコツペツ（小絲川）ヲコツ（岬）ヘノ（十一丁半ヲ）チカフヤニ（菊名ヲ少濱ヲ）ヲ過テ（十七丁半ヲ）年此ニテ所ノ間ヲ作リ雨天ノ便タリ（北十二丁）ヲニヲ（小濱ハ一丁）アフナイ川（小）名義鮭ノ事ヲ此上ニ大崩平（十二丁二十ヲ）ヲカシユンナイ（六丁半ヲ）マヽイ（四丁七十ヲ）山ノ濱ノ砂ニ小石ノ出ヲ小石多ク揚リヌ海中ノ間ヲ過ル美ヲ（六丁四十ヲ）ホンヲトンベ（九丁）（サウシナイ（小）ヲ）ヤヲ過ル崩平（十四丁半ヲ）チヨクベツ（川中ニ平余ヲ舟渡シ）久摺（十七丁六分ヲ）交ヲ渡シ中ヲ過ル名義秋川ト云川中ヲ流レ両岸ヲ境ヲ立テリ

ホロイワヲ境ニ十二ヲ三千二百三十四ヲ陸地ヲ（二丁廿三ヲ）又風波ノ時ハベサウシナイ上ヲ過ヒロウ金ヲ六十九ヲ廿七ヲ（二丁廿二ヲ）ヲ過ヲホツナイ六ヲ山ヲ越新本屋ヲ過リ此所始ヲ出ヲ過ヲ出テ七川ヲ過ル小石多

川筋上ノキナウシヘツ（右）川アノチヤレシベ（左）川源ヲシノマシチヨクヘツヲ左右ヨリ

川巾條落ヲ来ル魚類ヲ魴鮃鮃チライ桃色魚等多シ（シラリサ中口）

久摺（クスリ）

チユクヘツの訳ヲクスリヲ蜜ニ付本名チユクヘツヲ苦川上ノ間の位の星ヲ

落シ和名ヲ注ル路ヲ平シヌラルハウシ（并）テキナウシヘツ（小）川ヲ（十四丁二十ヲ）ヘシエハケ

岬（訳ヲ岬ヲ出ヲ）ヲ濱（六丁廿七ヲ）エカシユマナイ（小）川名義虚の海ヲ云訳ヲ出ヲ

時ヲ海ヲ和ヲ知ヲ和ヲ知ヲ和ヲ（十四丁半ヲ）ハシユシベツ（小）川苦此

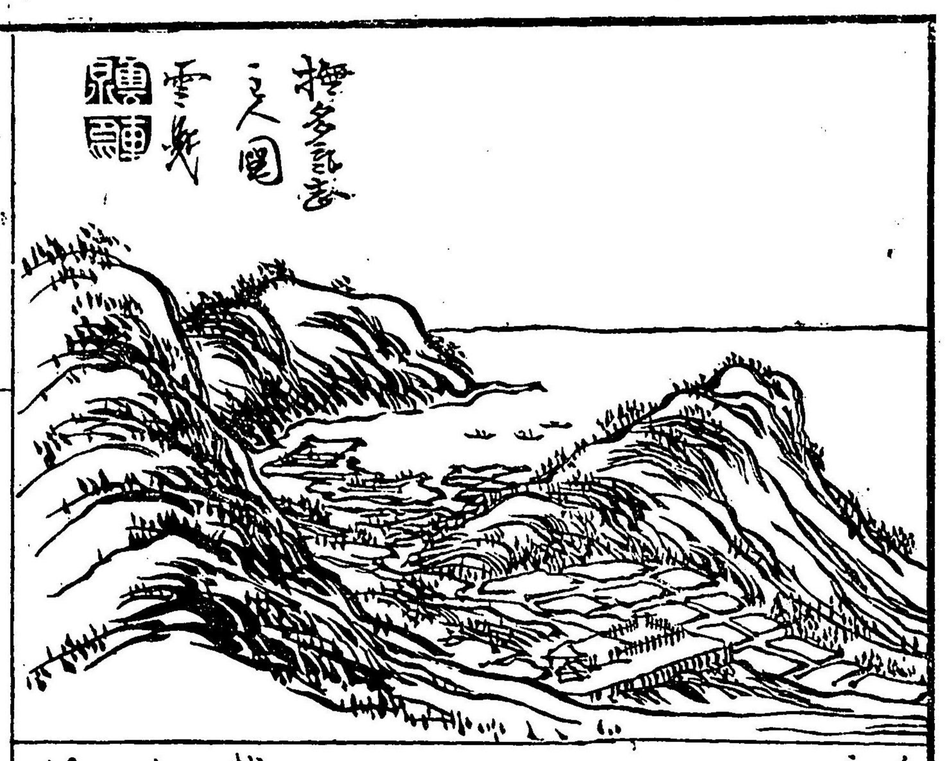
知（鯨ヲ上リシヲ炭（ハシク）の如クリヲ）ヲ号ヲ山金平山の下ヲ通ルトンヘツ（シヤクヘツ口ヲ支流）

此上平空谷地区南向ヘ開拓セヲ後ヲ平山ヲ過ル空（十一丁十七ヲ）

シヤクベツ（ヲ過ヲ止ヲ）人（ヲ過ヲ）ヤ（十人ヲ形）名義ヲ夏川ヘ或曰夏ヲ来ル水ヲ流ル本号

と無別（シヤリ）とも云乾別（サツテ）とも夏別（シヤリ）ヲ云姻ヲ七川風波の時ヘ蔓延ヲして腐ル

入り晴天の時ヲンベツと合て海ニ入る
川筋ゞ上ニトンベツ（上ニ沿る）シケレベ（右川ホ
シヤクベツ）左本川源近く桃芸高（高
時化の日ニ番屋の上を越ニ下る時ニハ
海雾を上る
ヲンベツ（川中十余ノ所ニ表示する船添ノ）名義ヲンニ木の皮
をもつて浸し磨ニ皮を剥ぎ
しゝ布ニ号く（北名解）又芸川ニ鹿の多く
住ニ故ニ鹿も川ニ入て居る皮毛のぬく
事ゝ号く云ヲンニ毛の抜ニ云



（メンカクシ申ロ）魚類鮭鱒鰈チライ鯨候多ク
川筋西岸ニ穴居跡（函）此地ニ数ヶ所地
上ニラマレラマナイ（右ワタイ）（左号数十ヶ所
の小川ニ二股ニ到る西川の方ニコエカタ
ヲンベツの源十勝領ウラホロの源ニ是寄
の方ニ到る右本川ニ雄岳（メアカン）の方ニ到る源ニ
コケラン岳ニ云てメアカンの尾ニ当ること（名ムン
ケ申ロ）越ク（三丁十ヲ）ヲフシユマナイ（小川名義）此川口閉
り方て高ク河辺より出ること二尺の上
此ニ柱来ニ成岸より上ニ通る方ニ

途上黄花の山葱貼をりんとり土人唱料
ゝ[illegible]ゝ後表結合ゝゝゝゝて黄花水
仙ゝクスリゝあゝて箱彼ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ後表又結ゝゝ木綿ゝ有
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
云ゝゝ果ゝて水揚(ヤマヒニ)柿朱ゝゝゝゝ(ヒヤンシト黄花水仙)
ウゝ文政の末の比船来の示ゝゝゝ何故帰
表地ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝホンフウレツ(小川)ゝゝ(十五丁)(小川)赤川と
ゝゝ(十五丁)ホンシヤウシナ
イ川(小)(キヤウシヤンニノ)苓葱多き川と云ふ此辺の上平山

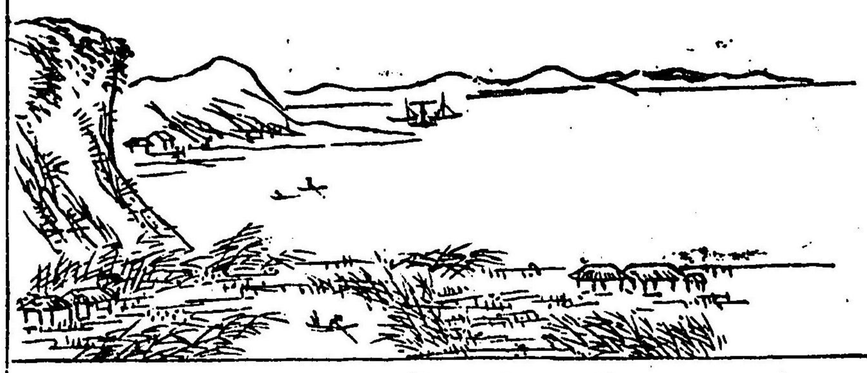
ゝゝ(二丁)ホンチノミ(一丁)ゝゝゝチノミ川(小)イノミの沿
り上ゝゝ平山ゝて大岩処ゝゝ突出ゝゝゝ
此辺源岩絶望ゝ(十四丁)ゝゝ(十四丁)モセウナイ川(小)(前)
のゝゝヤムワツカライ川(小)タツコラ山(小)(蕨)ゝゝゝ
(二十四丁)ハシクロ(沼を周)ゝゝ(小休不)此沼口破ゝ時化
の付ゝ船落ゝゝゝゝ依ゝ平ゝゝ馬船川
原引ゝ上有ゝ切口面後ゝ船和ゝゝゝゝ
踏ゝ岩尾ゝ名ゝゝ烏のゝ苔白糠ゝ
鰐約ゝ吹流ゝゝ付(モヤ)霧深ゝ何処ゝ
知ゝゝ(小)依ゝ海神ゝ祈りゝゝ

空ニ鵜の声ヲ聞キ〜風ニ声ヲ聞キ〜陸の方ヘ船ヲ出シ〜ニ此沼ニ到リ
ト依ル〜ニ土人ニ問フニ本船ヲ作リテ此沼ニ入ル〜 跡今ニ有
やまとうたにいはく〜古ニ成ル人ヲ絆のごとなほ思ふ事
沼口西ニカンチカルシ川ホンタツコフ山シユフンヌヘツ川此原ノ方ニ到ル桃花多シ
越テ平の下道十四丁ヲヨシヨシベ川ヲシユシユウシベの俗ノ柳多キの俗三丁ホンラシユシユ
ウシベ川ヲシヨロコツ川名ニ尻ヲつきとる俗ニ義経公此処ニテ蓬ヶ串ニ鯨を
さ〜焼給ひ〜時の串折リ〜ニ火ノ飛ンニ付ケテ尻絆つきとる〜ニ依テ
号〜ものと廿二丁ユウエト巳ニ処ニ平ニ注ル平野ニ成テ十一丁
陸奥小右名ニ口ニ会俗ニ一区の絲を義経公ニ人ニ問ヒ〜由依テ号ク七川
法場の上ニ成ル二丁ホ分ル 右チヤロ 左ワツテ

ワツテ左川ニ成ル五本の指を開キ〜形ニ成ル七川五ヶ所上ニ成テモトケフ小〜一番ヲサウシ
小ヨリ二丁ユウルヨリ三丁ルヘシナイ小ヨリ四丁ザケヲロ小ヨリ五丁此川ニヤトフヨカウシナイと并ひ
右ニ成ル号ク源ヲシヘツ岳東面ニ来ル
チヤロ右川名ニ成ル〜ニ成ル〜両岸字多クカリシヨ右川モ平左ルヘシベ左川ヲウナイ
右川ニ成ル絲ニ成ル〜ニ二股右ニ五カタチヤロ左本川ニ成ル小川多クニ成ルチシホクと云
峠を越ル足寄の川筋ニ越る同所土人ニ問ヒ〜此処ニ成ル多ク越ル〜ニ
川筋紐解殺桃ニ成ル魚多〜 ウエンクル 申ロ
川原ニ成ル〜ニ成ルテホンフレヘツ川同ク十五丁三十町白糠小川ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜
ヲフチフと云枝川と成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜ニ成ル〜
ヤ〜ニ成ル時ニ貝石ニ

〻法の世代おのゝ〻茂りゝゝ〻の葉を嚴とをりて苔むゝ〻ふるさ
白糠番屋 奥の平 新妻石板 人見小屋有 土地山のすゝしの方に立南東沼形有一名才沖平
宮〻山を負ひ〻暖地〻傍に創る重有 合殿 宗和の作 手 妻作 いろ〻の作 此処純粹宮〻宮殿
もシラリイカ〻て汐越るを云俗滿汐の時を此ヲフチヲの川より チヤロワツテヤて
平坂無く汐おの入る名に号く土人小屋有甘草クスリ白糠と別場に茶〻を文化度
一坂なとを〻て近所まで此上て石炭を堀出して鑿て堀居る〻を稼方九物
堂の堀方と家〻の居シエト四七堂〻クスリサキ貝を初る人家 手 家 人別多〻 人別多人余
別て七名ヨホントを云一竈に十五人多〻家も大く多〻て是此堂の無て名に
走て能土人を以て指者居て沼を沒堂汐干の時を望て 此堂
を元白糠と云フシナイ小川本名フシユウナイと云大古神の物を飛り初め処と云

有章



フシユウ〻物〻此堂沈土地に付の世〻物を
作り物の無く米空一面〻畑作有サク
シ小川 夷家有昆布場〻 手 ハ ニテ 手 チカヨ
フ小川本名ツカヨフ苔チカ多く産を〻
を以て云〻此処文化度間を〻アハシリ
越新名の入口縁ち土地を七名ヨホン
ホツ〻文化五辰年東地より出地場毛ら
馬を六匹宛て付〻借合大場無〻作切
初め七手午の春義成キを〻と文政初
の頃を土人和人共に往来を〻を松前

後領ノ郷武部ノ屋敷ナル人ノ家ニ入ル入口ノ方ハ板ヲ
七度又之領ノ郷ノ付引後ノ付改テ松ヲ家ニテ宮札ヲ作リ
ひ〻ヲ作リ名ヲ付ケ人〻ヲ分ケ国ノ人〻ヤ方〻ヲ作
注ス国名新本ノ入 二十七ヲ ヨロ、川中 二十五余ノ長 名ヲヨロ、マウエヲ云則
順風ノ勢ヲ以テ此川屈曲セリ舟ヲ出シ早ク 地名 解 ヌ〻
出水ノ付ノ新ヲ事ノ如ク ヲ中ノ ノ作ヲ
川ヲ沙深ヲ時代ノ付ヲ必ヲ治草ヲ廿十余ヲ ニンカタ フウレヘツ 法 場 チフタナ
イ 左川港ヲ ノ付法 チノヲ 右川 ヲ文化度新ノ付役人ヲ土人ヲ神酒ヲ給リ
処ヘヲリヲコマナイ 左川 此ヲヲ小川九十餘ノ処ヲ堅雷ノ付ヲ来ヲ宮ヲ
ヲテホロソウ 大 此滝中二丈ノ宮ヲ五六実ヲ有ヲ勢ヲ上ヲ絶ヘ壺ヘ鹿ヲ落

セヲ三ヲ三ヲ後上ヲ〻〻ヲ此処ヲ経船 殺チライ等来ル
ヲ上ヲ上ヲヲヲヲヲヲヲヲ川トイヘツ 右 此ヲヲヲ南岸嘴ヲ〻〻
過テ青木山ヲ〻ヲ〻ホリカシヨロ、左方 水源 ヲテクツネシベツ 弁 ヲコエホクシヨロ、北方ノ入 メアカン岳
ノ下ヲ コイカタシヨロ、東方 名源 此源シタカロフトヲ弁入テ雄岳南北方ヲ入ル
注此処ヲ平地ノ地堅ク生ノ ヲ 十丁 ヲ コイトフ 沙流 小川 上ヲ細キ沼有ル山処ヲ高経
ヲ付テ波浪ノ上ヲ号ヲ名ヲ子二 一里廿四丁 ヲタノシケヲ此処ヲ上テクスリ白粉 シラカ
の境ヲ名ヲ由 六十五 十ヲ ヲタノシケヲマフ 小川 格有 名ヲ流の中ヲ名ヲ後ヲフト有ヲ
実ヲ舎利岳雄岳 オヲカン 雌岳 メヲカン 号ヲ中上ノ方ヲ二十餘丁ヨコムニウシヲ云ル山有ル此後
モアカン川 脇ヘ生ヲ過ヲ芒原ヲ廣ク余アカンノ付ヲ長ヲ入ル一里八丁
罕 小 ヘトマエ 川名ヲ ヘツヲマイヲテ川入ル是クスリの持川ヲテ川ヲ落ル

回り沙原一里十六丁十三町トンケシ小沼ある石狩沼の堤と回り〳〵沙原をとおて五丁十五町クスリヘツ川中十五余町舟口〳〵越て此川筋の事と久摺日誌に出たる事と

越て赤岩今別と人家つゞき七十二軒市町の形〳〵を為て事地牙一人家の立連り

〳〵場所ありヘンケウラコツ村中ヌサマイ村中本陣をなす所ヲタエト川口沙地是則沙嶋ハンケウラヨリ沙地

白粉七丁 白十鯨金五三本 大小百三 熊胆三棒 鹿皮一 熊毛百三 鹿角六〳〵一

チヨロヘツ枝目十二里八丁四十八町 武器類 鉄品〳〵二棒

久摺會所 通行屋 板屋十六棟 金五 大小百三 熊胆三棒 鹿皮一 熊毛百三 鹿角六〳〵一の

馬小屋二 秋味小や一 かやぶき二 昆布小屋 元ちゝ上る鎮守の社 稲荷 扇天 阿南三社 蝦夷領分無宗教百五十二軒

人別千弐百九十八人 安政元年改 有 文政十午弐百七十四軒十三寺寺人 元松前藩飛内亀左衛門

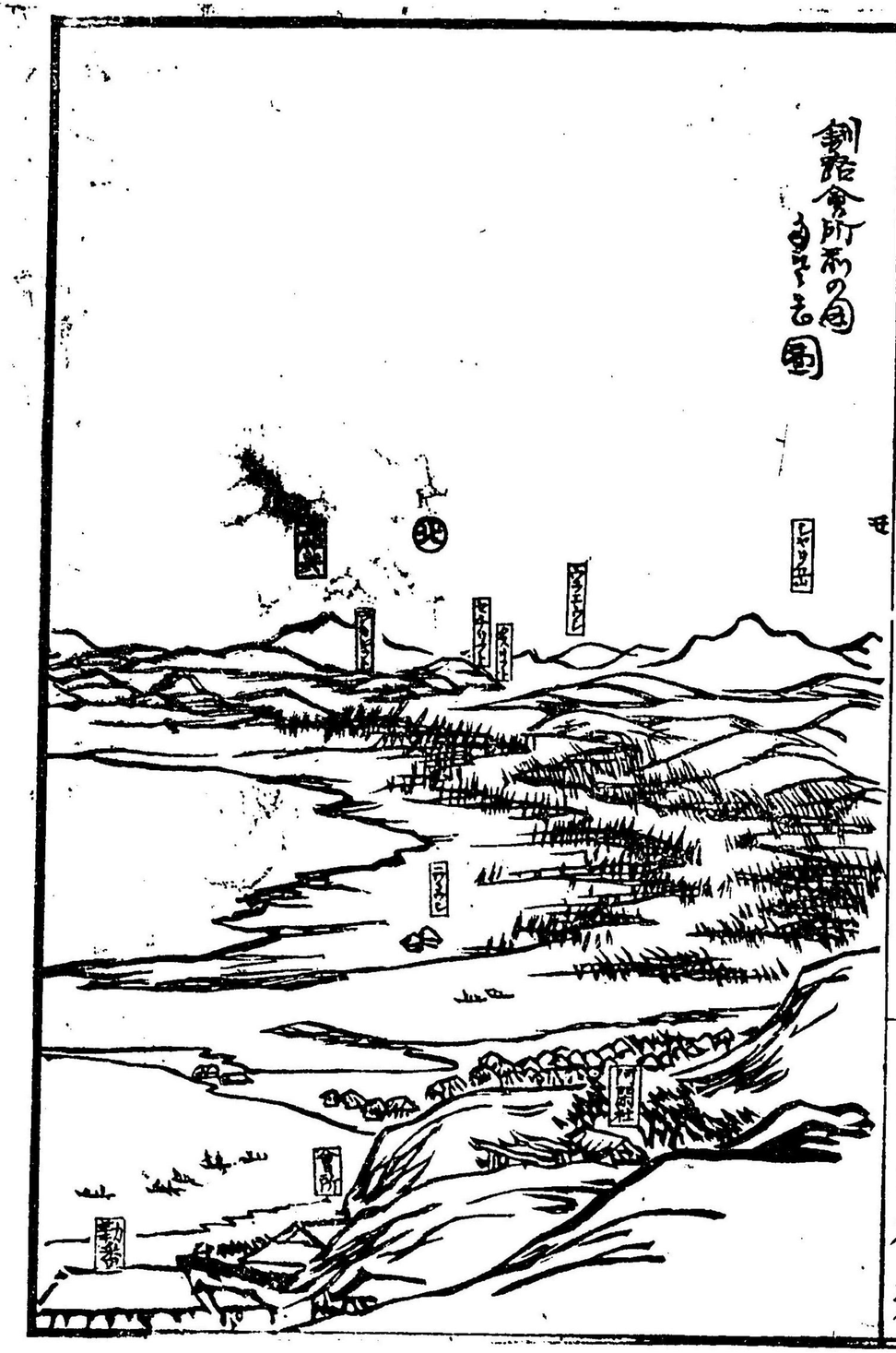
給所此処に沼船七八丁沖に出る夷子風にて江戸に出帆 西の風にて

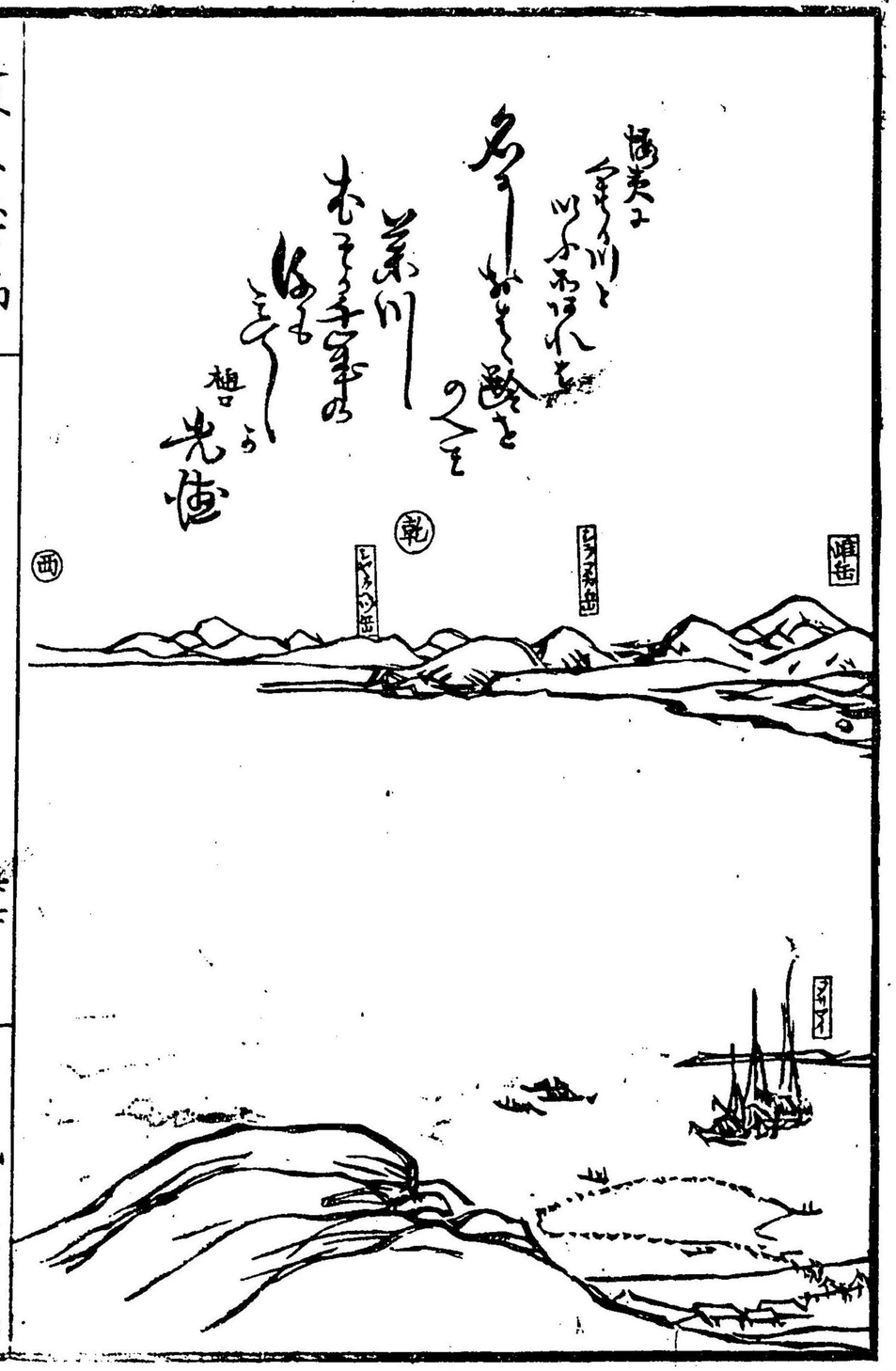
入津 土地西向平山の半腹 下川口〳〵白粉を一見 十方両岳アハシリ

の山に南大洋を眺め西北の風を背〳〵南り多日を経る事を〳〵後に

チヤシコツ 有此城 ヲニシトムシトムシ 右往古由今素性の陶器多く猿石雷

谷石多を堀出す 土産 昆布 鱈 鰯 鮫 鯨 鮭 鱒 鯉 鯉 鯉


勅使会所和の図
北
西
東


乾
西
東

ニシテ雪トムシテトウシテトヤ云ハヽ子ヲ妻ノ名ハ知ラヽ

○トミカラアイノ此者ハルトルの城を築き居住をなす根室厚岸十勝三方より攻来る落城に及ぶ後サルシナイに城を築き居て付き攻来りしに前の谷地を城となすて防禦利を得城を子に譲り二シベツの方に住すと名実金多と云ハヽ

○トミチヤアイノ此者家あり シラリウトルの上に城を築き会利根室の兵と戦勝しと名実金を割て如く角三方にて云ハヽと

○タサニセ トミカラアイノ件 此者サルシナイの城にて諸方の敵を防しと名実雲の合と云ハヽ

○ヘケレニセ 同オ 此者今のヌサウシの城に居しと此連綿数代その服七名メンカクシ家の先祖の居所なりしに依て名を紀して後を

為て文字なしにてくめしに受しなるべしなるべし北の方にて

地勢此チヤシコウより ヒロウ岸まで南北に三十里計東西に十里計

山をへだてて中に十勝久摺の二大河あり石狩流の川筋城

ークスリ川筋ようえ小樽内アハシリ斜里小城 他に一大湾を二ツ國とも

分割て十勝を編中に演きてサウナイフトをクスリはシベツチヤとアカン川筋にシタカロ岸ふ扇掛不を西セチリアハシリ元屋を築き

た斜里領子モロ領るシベツ川筋を切カンチウシケ子カ岸を開拓 植

渠結番を程 岸々に桐杉桂を仕立シタカロアシベツ岸に別て青沃の

地を選びて村落を建て牡鹿ユウタニ岸の禁中その松 坂夫松

根樺を伐て夫に生産を始て白樺の石岸久摺湖の孤英に云ふ及て守

シユサモ鮫売にて出方を始て北の海の海の産物を産

棄きゝ志ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ主人を主て不毛夷徭の見れ[illegible]を改め[illegible]
不日ゝて富國恵強の天域ゝ[illegible]ん[illegible]と奏[illegible]
[illegible]

國[illegible]

東蝦夷日誌巻七大尾

紅雨樓藏

中原生師仁義
門王仁兼秀
四夷來朝

録康節邵先生詩以代
北海松浦老兄所著蝦夷日誌題言
時明治六年六月　槐堂淡兼緝

124
11
24

東蝦夷日誌 六編 七編

124
24
24